

[第1号議案]

1-1. 2019 年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
 5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
 6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
 7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
 9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
 10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
 12. 法人運営
- 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
 - 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
 - 付3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
 - 付4. 国際会議一覧
 - 付5. 表彰等
- その他・附属明細書

2019 年度 事業報告

1. 概況および重点活動

IoT (Internet of Things) , ビッグデータ, 人工知能(AI)が社会の注目を集め, これからの未来を大きく変えようとする現在, 本会の果たすべき役割はますます広がっている。これまで学会の抜本的改革を継続的に推進してきたこと, またジュニア会員制度の積極的な推進により, ジュニア会員は増加となったものの, 正会員の減少傾向は依然継続しており, 学生会員の入会も伸び悩み, 個人会員数は昨年度に比べ約 100 名の減少となった。調査研究活動, 学会誌の発行, 論文誌編集活動, 学術講習会の開催, 標準化活動においては, 新たな取り組みに挑戦しつつ, 成果を上げている。また, 2018 年度 10 月から開始した会員サービスについては, 支部統合や利便性向上に向けた, 機能拡充を行っている。財務的には, 厳しい状況であったにもかかわらず, 予算計画の目標を達成した。一方, 会員サービスを中心とするこれまでの学会の在り方を補完する新たな取り組みの検討を進めている。具体的には, 長期戦略理事が中心となり, 各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを中心に, 各担当理事および支部長から意見を収集, 検討を進め課題整理を行った。社会に対して本会の専門性を還元するため, 魅力的なイベント企画を推進し, 本会会員だけでなく一般の方々を開かれた活動を通して情報処理技術の価値を発信した。また, 情報処理技術の使い手である他学会や関連団体とも積極的に連携し, 技術に対する健全なフィードバックを得ている。本会はこれらを通じて社会から信頼される情報処理分野におけるリーダーシップを確立していきたい。

特筆すべき改革や成果としては, 下記のものあげられる。

- 2018 年度に改版した学会情報システム (マイページ) の活用普及と機能向上を実施した。
- ジュニア会員向け活動の活性化を図る事を目的として, 「ジュニア会員活性化委員会」が中心となり, ジュニア会員向け Web ページのリニューアルやジュニア会員サポーター募集, メール配信等広報活動, 2020 年度小中高教員新規入会キャンペーンの検討を推進した。また, 各種諸活動においても, ジュニア会員向けのセミナー「Exciting Coding! Junior」, 会誌「先生, 質問です!」コーナー, ジュニア会員の論文掲載料無料化, 支部でのジュニア会員向けイベント等々の施策を行い, ジュニア会員制度の周知強化に努め, 制度創設以来最高の 1,927 名を達成した。
- 新世代企画委員会における若手の活発な取り組みを続け, 会誌「先生, 質問です!」コーナーや, ニコニコ動画との連携, 学会イベント受付のオンライン化, 勉強会フォーラム等の取り組みを推進した。また, ジュニア会員向けサービスの強化を進めた。なお, 全国大会での開催を予定していた「IPSJ-ONE」は新型コロナウイルス感染症による影響で全国大会の現地開催が中止となった為, 開催を中止した。
- Info-WorkPlace 委員会の活動目的を再度見直し「働き方 (WorkPlace) の共有をする」活動へとシフトすることとした。。
- 2018 年度 IFIP IP3 からの認定を受けた, 実務家・IT エンジニア向けサービスである認定情報技術者制度 (CITP) において, 新たに企業認定 1 社および 451 名の認定情報技術者が誕生し, 累計で 9,853 名を認定した。(注: IP3: International Professional Practice Partnership)
- 長期戦略理事が中心となり, 各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを中心に, 各担当理事および支部長から意見を収集, 検討を進め課題整理を行った。
- デジタルプラクティスの改革を進め, トランザクション (T-DP) , デジタルプラクティスコーナ (会誌) , DP レポートの 3 本柱で再スタートすることとした。

- 産業界向けイベントとしてこれまで実施してきたソフトウェアジャパンを廃止し、これに代えて産業界中心の IT フォーラム活動を継続推進するとともに、イベントとして IT フォーラム 2020 を開催した。
- 「データサイエンティスト戦略委員会」を新設し、教育から資格制度まで一貫統一した施策検討のできる体制化を図った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、第 82 回全国大会の現地開催が中止となったが、オンライン開催にチャレンジし無事完了した。同様に、研究会による大規模シンポジウム「インタラクション 2020」についてもオンライン開催を無事終了した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、査読システムのリニューアル、電子図書館のサイトライセンスサービス、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としての伝統的な活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取り組むとともに、理事を中心とした入会促進活動およびジュニア会員制度の積極的な推進に努め、ジュニア会員は増加となったものの、正会員の減少傾向は依然継続しており、学生会員の入会も伸び悩み、昨年度に比べ 99 名の減少となった。
- ② 会員サービスの向上、運用コストの削減、セキュリティ対策の強化等を目標に、2018 年度にリニューアルした学会システムの機能拡充を進めた。また、支部 Web サイトについても ISP の統一とセキュリティ強化を行った。
- ③ 長期戦略理事を中心に各事業の健全な継続性に向けて現状把握と課題の洗い出しを進めた。
- ④ アドバイザリーボードからの「社会が求める情報処理学会とは」、それに伴う「学会運営の仕組み」といった観点からの提言をうけ、企画政策委員会で検討した。
- ⑤ 会員数の増加を図る為にジュニア会員向けサービス拡充や理事を中心に入会促進活動を行った。
- ⑥ 2020 年の本会創立 60 周年を迎えるにあたり、各種記念事業の検討を行った。

1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② 小学生から大学学部 3 年生までがオープンに入会申込できる「ジュニア会員制度」を推進し、若い世代の入会を促進した。また、「Exciting Coding! Junior 2019」など、数々のジュニア会員向けイベントを開催・共催した。2020 年 3 月末現在ジュニア会員数は 1,927 名である。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会における中心的活動の一つの柱として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の 3 領域に分けて、領域委員会を 3 回ずつ開催し（内 1 回は調査研究運営委員会・3 領域委員会合同委員会）、研究会間での情報交換を促した。
- ② 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間 2019 年 11 月 1 日～2020 年 10 月 31 日）を募集し、国際会議支援、女性

- 研究者支援，若手研究者支援などの5件（総額54万円）を採択し支援した。
- ③ 情報保障の導入を支援するため，アクセシビリティ研究会で実施している文字通訳や手話通訳に対して，調査研究活動の積立資金より40万円を補助した。
 - ④ 複数の研究会の共催による「DICOMOシンポジウム」，「インタラクション」などを開催した。
なお，「インタラクション」は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止しオンラインで開催した。
 - ⑤ 情報学分野における研究の最先端の潮流と近未来に向けたチャレンジングな研究課題を俯瞰し，官学間で共有することを目指した「情報学の次世代検討会」を，国立情報学研究所と共催した。
 - ⑥ 研究会活動に対する貢献を顕彰する「研究会活動貢献賞」を新設した。

1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）のインパクトファクタ取得について，諸対応を検討した。現時点では JIP がインパクトファクタを取得する条件を満たしていないが，インパクトファクタの評価を行うための Web of Science データベースへの登録は比較的容易であることが判明したため，関係する出版社と交渉し準備を進めた。
- ② 国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts の運用を行い，JIP を中心に査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させ，利用ノウハウの蓄積を進めた。
- ③ 研究会活動を中心に，国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして，ACM CHI への参加費・旅費の援助を行った。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会との連携（学会員向けサービス等）に加え，若手向け表彰として「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」および「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」を継続推進した。
- ⑤ アジア地域の国々との連携の機会を検討し，タイのパタヤで Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform 2019 (APRIS2019)を行った。
- ⑥ アジアの関連学会である中国 CCF(China Computer Federation)，韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。また，中国の福州で開催された CNCC2019 において CJK Joint Technical Forum を共同開催した。

1.5 実務家・IT エンジニア向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度」では，個人認証において技術士（情報工学）に対する資格審査の一部免除制度を今年度から開始するとともに，個人認証の取得を推奨する新たな企業の社員からの受審があった。また，企業認定において新たに1社を認定した（新認定企業からの個人登録は来年度となる見通し）。認定したCITP総数は累計で，2018年度末の9,402名から9,853名へと増大している。
- ② デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，ITフォーラムなど，各種の実務家・ITエンジニア向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），電子情報技術産業協会（JEITA），科学技術振興機構（JST），先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC），インターネット協会（IAJ），情報通信技術委員（TTC），日本データ通信協会（JADAC），新世代M2Mコンソーシアム（NGM2M），日本規格協会（JSA），モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）などの実務家・IT エンジニアを対象とする団体との連携を深めた。

1.6 教育活動の充実

初等中等教育，専門学校そして大学などにおける情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プロ

グラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

- ① カリキュラム標準 J17 (J17-CS, J17-IS, J17-CE, J17-SE, J17-IT, J17-GE, J17-CyberSecurity) のフォローアップ作業を継続して行った。
- ② 「情報科」入試実施における評価手法の検討としては、次期学習指導要領を加味した知識体系の整理、情報科での「思考力・判断力・表現力」評価手法の検討を継続して行ない、模擬試験問題について検討した。
- ③ アクレディテーション活動（教育機関における技術者教育プログラムの認定、JABEE からの委託、国際水準を目指して教育改善を推進しソウル協定の活動に協力）を継続した。
- ④ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催および教育シンポジウム・ワークショップ・コンテストの運営と後援を実施した。
- ⑤ ソフトウェア工学教育の国際化に関して、引き続き国際動向を調査し、World Conference on Computers in Education (WCCE2021)の広島開催に向けて準備を進めた。
- ⑥ Computing Curricula 2020 (CC2020) (ACM と IEEE-CS 中心のプロジェクト)のイベントを日本で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
- ⑦ 本会全国大会において、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストをオンラインで実施した。
- ⑧ 「ジュニア会員活性化委員会」により、上記の活動をさらに推進した。
- ⑨ 新たに「データサイエンス教育委員会」を立ち上げた。
- ⑩ 日本学術会議による「情報教育の参照基準」の策定に協力し、令和元年 5 月 18 日の公開シンポジウムを情報処理教育委員会が共催した。

1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進した。
- ② 2014年度に提携したドワンゴ社のニコニコ動画配信は継続し、強化を図った。
- ③ 会員のアクティビティの電子的な記録を収集するため、イベント・シンポジウム等申込サイトの試行を継続した。また、新たなサービスとして、イベント会場でのQRコードによる受付システムを導入した。

1.8 学会システムの運用開始

2018年度に運用を開始したクラウド型 (SaaS, ASP型) 新学会情報システムについて、会誌の冊子版の必要を会員自身が選択できるようにする等、機能追加を実施した。

関西支部、九州支部に続き残り6支部もWebサイトのISPの統一とセキュリティ強化を行った。また8支部サイトのコンテンツ統合に向けて、各支部の要望をヒアリングし、共通プラットフォームに必要な要件の整理、費用見積を実施した。

1.9 学会創立 60 周年記念事業の推進

本会創立 60 周年記念事業として、本年 3 月に記念全国大会の開催 (2020 年 3 月 5 日～7 日、金沢工大) を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止 (一部セッションをオンライン開催) した。なお、次年度は、記念会誌特集号「2050 年の情報処理 (2020 年 5 月号)」発行、記念論文 (記念式典にて表彰)、60 年史「情報処理学会 60 年のあゆみ」の刊行、記念出版「情報処理技術遺産とパイオニアたち」、記念式典開催 (10 月 30 日 (金)、明治記念館) の実施を予定している。

2. 会員の異動状況

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2019年度の異動内訳				
	① 2019 年度末	② 2018 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	40	39	1	1 1	新入会 正会員から異動	1		
正会員	15,211	15,453	-242	449 827 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	1,055 1		462 名誉会員に異動
学生会員	2,585	2,728	-143	1,312 46	ジュニアから異動	621 827 0		53 正会員に異動 ジュニアに異動
ジュニア会員	1,927	1,642	285	829 0 0	正会員から異動 学生から異動	498 0 46		
個人会員 計	19,763	19,862	-99	3,465		3,049		515
賛助会員 (口数)	275 (621)	258 (589)	17 (32)	36 (51)		19 (19)		

*2019年度期末正会員数には終身会員653名を含む。

3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌／出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を開催した。また、総会においては普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらい、交流を深めることを目的として講演会と交流会を実施、本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「トランジスタ計算機 K-1」の展示も行った。詳細は付録1（p.20～p.34）に掲載する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌：調査研究運営委員会および各領域委員会]

40研究会、5研究グループ（内1研究グループは調査研究運営委員会所属）により活動し、研究発表会（155回 内14回はオンライン開催、内12回は開催中止*）およびシンポジウム等（22回 内1回はオンライン開催*）を開催した。詳細は付録2（p.35～p.41）に掲載する。

*新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催もしくは開催中止となった。

※前年度参考：40研究会、4研究グループ、研究発表会158回、シンポジウム22回

[1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会（40回 内2回はオンライン開催、内3回開催中止）、シンポジウム等（8回）

を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① データベースシステム(DBS)研究会が電子情報通信学会・日本データベース学会と共催で「第12回 Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2019) (2019年9月8日～9日, 工学院大学)」を開催した。参加者は339名で、企業スポンサーは19社と盛況であった。
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、領域共通の積立金を活用して2019年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を17名に授与した。
- ③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において、顕著な功績のあった8名と1団体に対し、領域共通の積立金を活用して2019年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

[2] 情報環境領域

16研究会により、研究発表会(61回 内9回はオンライン開催, 内3回は開催中止), シンポジウム等(9回 内1回はオンライン開催)を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、学生スマートフォンアプリコンテスト, 国際会議支援, 女性研究者支援, 研究基礎力向上のための勉強会開催支援, シンポジウム開催支援の5件のプロジェクト(総額54万円)を支援することとした。前年度採用したプロジェクトの一部は成果報告を行い、領域の活性化に貢献したことを確認した。
- ② 10研究会*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOM02019シンポジウム(2019年7月3日～5日, 福島県磐梯熱海温泉 華の湯)」を開催した。参加者は400名であった。
※マルチメディア通信と分散処理(DPS), グループウェアとネットワークサービス(GN), モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム(MBL), コンピュータセキュリティ(CSEC), 高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS), ユビキタスコンピューティングシステム(UBI), インターネットと運用技術(IOT), コンシューマ・デバイス&システム(CDS), セキュリティ心理学とトラスト(SPT), デジタルコンテンツクリエイション(DCC)各研究会
- ③ 5研究会*が合同で「インタラクション2020シンポジウム(2020年3月9日～11日)」を開催した。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止し、インタラクティブ発表も含めてオンラインで開催した。参加者は500名を超えた。ジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。
※ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI), グループウェアとネットワークサービス(GN), ユビキタスコンピューティングシステム(UBI), デジタルコンテンツクリエイション(DCC), エンタテインメントコンピューティング(EC)各研究会

[3] メディア知能情報領域

14研究会, 4研究グループにより、研究発表会(54回 内3回はオンライン開催, 内6回は開催中止), シンポジウム等(5回)を行った。

- ① コンピュータビジョンとイメージメディア(CVIM)研究会が電子情報通信学会パターン認識・メディア理解(PRMU)研究会と共催で「第22回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2019)(2019年7月29日～8月1日, グランキューブ大阪)」を開催した。電子情報通信学会と交代で幹事学会を務めており、今回は本会が幹事だった。参加者1,053名と盛況であった。
- ② エンタテインメントコンピューティング(EC)研究会が4研究会などの協賛のもと、「エンタテインメントコンピューティング2019シンポジウム(2019年9月20日～22日, 九州大学大橋キャンパス)」を開催し、参加者は200名を超えた。
- ③ 複数研究会でニコニコ生放送等にて研究発表会の動画中継を行った。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research、IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award、若手奨励賞を贈呈した。付録5 (p. 49～p. 52) に掲載する。

(2) 調査研究運営委員会直属研究グループの所属について

領域横断的な研究活動の拡充を目指して、2020年度より、ビッグデータ解析のビジネス実務利活用研究グループ (PBD) が調査研究運営委員会直属の研究グループとして活動することとなった。これにより、調査研究運営委員会直属研究グループはオープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ (RDM) と合わせ2つとなった。

(3) 「情報学の次世代」検討会について

情報学分野における研究の最先端の潮流を俯瞰し、文部科学省第6期科学技術基本計画を念頭に、近未来に向けたチャレンジングな研究課題を官民間で共有することを目指した「情報学の次世代」検討会を、国立情報学研究所との共催で3日にわたって開催した。本検討会では31研究会・研究グループより意欲的な発表があった。また、本検討会での議論に基づいて再度の会合を持ち、情報学に関する新たなプロジェクト提案の具体化を進めている。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 情報専門学科カリキュラム標準 (J17) のフォローアップ

J17の中核となるJ17-CS、J17-IS、J17-CE、J17-SE、J17-ITの情報専門学科用カリキュラム標準、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEについて、フォローアップ作業を行った。また、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEに準拠した教科書の作成を進めた。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

国の情報教育の方向および内容に関して、他学協会とも連携して意見書や提言を行った。高専プロコン交流育成協会 (NAPROCK) との連携により、高専プロコン連携シンポジウムの実施を行った。また、初等中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。文科省からの「講師紹介窓口」としての紹介・受付開始・対応ガイドラインの策定をした。5つの教育委員会・学校 (青森県、千葉県、長野県、神奈川県) の各教育委員会、東京都立高等学校) から依頼を受け、講師紹介を行なった。

5.2 アクレディテーション (技術者教育プログラムの認定) [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構 (JABEE) 委託の認定評価を継続した。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル

協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEE審査4件を担当した。JABEEの審査基準の変更に委員を派遣し、審査基準の個別基準の変更作業を行った。JABEEのソウル協定の活動に、委員会として貢献した。

5.3 教員免許更新講習の開催 [所掌：情報処理教育委員会]

2014年度より実施している高校の教科「情報」に関する教員免許更新講習を引き続き実施した。東京地区（東京大学，化学会館），東海地区（名古屋文理大学）と関西地区（大阪大学，大阪電気通信大学）で開催した。本会が講習を実施することは、「情報」に特化した更新講習を実現し、高校の情報科教員の知識の更新（アップデート）に役立つものであった。

5.4 認定情報技術者制度 [所掌：資格制度運営委員会，個人認証審査委員会，企業認証審査委員会]

認定情報技術者（CITP）では、個人認証において技術士（情報工学）に対する資格審査の一部免除制度を今年度から開始するとともに、個人認証の取得を推奨する新たな企業の社員からの受審があった。また、企業認定において新たに1社を認定した（新認定企業からの個人登録は来年度となる見通し）。認定したCITP総数は累計で、2018年度末の9,402名から9,853名へと増大している。CITPホルダーにより第25～28回のCITPコミュニティ定例会議が開催され、11月には、2017、2018年度に引き続き、石巻市と本会東北支部の後援を得て石巻シンポジウムが開催され、「デザイン思考」をワークショップ型で体験することにより価値創造のプロセスを理解する取り組みが行われた。

5.5 その他 [所掌：情報処理教育委員会]

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営した。高校教科「情報」に関するシンポジウムを東京で開催した。大学の情報教育に関するシンポジウム「これからの大学の情報教育」を福岡国際会議場で共催した。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを開催した。また、若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を推進した。第82回全国大会は、新型コロナウイルスの影響により残念ながら現地開催は中止となったが、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストは、2018年度を大きく上回る60件の発表を集め、オンラインにて実施した。さらに、高大接続のための情報ブレースメントテストを一般情報教育委員会の委員の所属大学他で実施し、結果を全国大会のイベント企画で報告した。また、日本学術会議による「情報教育の参照基準」の策定に協力し、令和元年5月18日の公開シンポジウムを情報処理教育委員会が共催した。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

「情報科」での「知識・技能」＋「思考力・判断力・表現力」を評価するための試験問題について、今までに作った問題の整理（問題集や解説本）や新たな作問を継続して行った。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(4) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈した。
- ② 教材，講義素材，講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行った。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討した。
- ④ 国際会議「World Conference on Computers in Education (WCCE2021)」の日本開催に向けた準備検討が進められた。

6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

※各開催状況の詳細は付録2（p. 41～p. 43）に掲載する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第82回全国大会 [所掌：全国大会組織委員会]

第82回全国大会を2020年3月5～7日に金沢工業大学扇が丘キャンパスで開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症による影響で現地開催が中止となり、Zoomによるオンライン開催を行った。本大会では、一般セッション、学生セッションと一部のイベント（「MEC (Multi-access Edge Computing)への挑戦」「先生質問です！公開セッション」）はオンライン開催とし、それ以外の表彰式、招待講演、懇親会、イベント企画は中止（または延期）となった。「中高生情報学研究コンテスト（発表件数60件）」「第8回国際人工知能プログラミングコンテスト（Samurai Coding 2019-20）決勝」はオンラインでの審査を行った。60周年記念事業として予定していた「初音ミク ファン メイド ミニライブ IPSJ-39」，「『工学の曙』文庫特別展」，学会のあゆみパネル展示，来場者用の金沢駅-大学間の無料シャトルバス運行および81大会同様予定していた，ニコニコ動画によるメイン会場のライブ配信，「IPSJ-ONE」，「IT情報系 キャリア研究セッション」，託児所の設置，聴覚障害者向け情報保障も中止となった。また，今回より講演参加費の改定を行い，オンライン参加（当日参加）は，予約価格と同じ価格とした。講演件数は1,141件（一般セッション195件，学生セッション946件），参加者数は2,419名（参加券発行数）であった。

※前年度参考：講演件数1,192件，総参加者数2,905名

(2) 第18回情報科学技術フォーラム（FIT2019） [所掌：FIT運営委員会]

事務経費削減と効率化のため，2019年度よりFIT事務局を本会に一本化することとした。

FIT2019（第18回情報科学技術フォーラム）を，2019年9月3～5日に岡山大学津島キャンパスにおいて開催した。講演件数は529件，総参加者数は1,336名であった。船井業績賞受賞者産業技術総合研究所 首席研究員 後藤真孝氏による受賞記念講演を実施した。イベント企画（計18件），前回の既発表論文紹介セッションに代わるトップコンファレンスセッション（3日間で7セッション，37件）を新たに実施した。今回は企業によるインダストリアルセッション（5社）とIT情報系キャリアセッションを開催した。また，スポンサー10口，ランチョンセッション1口を獲得した。その他，視覚障害者向け情報保障（音声認識ツール，PC通訳）の提供や，岡山後楽園でイベントと懇親会を開催し，後楽園セッションスポンサー（6口）を獲得した。託児所を開設し，1名の利用があった。

※前年度参考：講演件数508件，総参加者数1,069名

(3) 表彰 [所掌：全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため，全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録5（p. 51）に掲載する。

6.2 セミナー／ITフォーラム2020／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2019 [所掌：セミナー推進委員会]

「データ駆動で新時代を切り拓く」を全体テーマとし，年度内に全6回開催し，本会場（東京）延べ508名，遠隔会場（大阪）延べ102名，遠隔会場（東北）延べ49名，（全体）延べ659名の多数の参加があった。

※前年度参考：全6回，東京／大阪／東北延べ参加者数712名

(2) 短期集中セミナー [所掌：セミナー推進委員会]

年度内に、次の短期集中セミナーを開催した。

- ・「量子コンピュータ&量子通信の最新動向と展望」(4月) 参加者：71名
- ・「AI×IoTの社会実装と標準化における課題と取り組み」(10月) 参加者：85名
- ・「Society5.0に向けたデータ流通」(12月) 参加者：65名
- ・「JPEG/MPEG標準化の最新動向2019～2020年に向けた活動状況～」(12月) 参加者：41名
- ・「Exciting Coding! Junior 2019：スクラッチを使ってプログラミングを学ぼう！」(12月) 参加者：10組(20名)(小学校高学年向け)
- ・「事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用」(1月) 参加者：28名
- ・「ここまで来た!空間表現の先端事例と技術動向～CG/CV/VR/HCIの最先端～」(2月) 参加者：47名

(3) ITフォーラム2020 [所掌：ITフォーラム推進委員会]

大規模なセミナーイベントとしてのソフトウェアジャパンから、コミュニティ活動主体のITフォーラム2020へと形式を変更して開催した。参加者：184名。

(4) プログラミング・シンポジウム [所掌：事業運営委員会]

年度内に2回(第61回プログラミング・シンポジウム、夏のプログラミング・シンポジウム2019)のシンポジウムを開催した。いずれも2泊3日の合宿形式で開催され、活発な議論が行われた。第52回情報科学若手の会については、台風19号による交通機関への影響、参加者の安全を考慮し中止とした。

6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

① 2019年度はサービスサイエンスフォーラム、コンタクトセンターフォーラム、CITPフォーラムの3つのITフォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

- ・サービスサイエンス：3分科会がそれぞれ月1回程度のミーティングの他、月の研究会、研究会成果を出版した。
- ・コンタクトセンター：2ヶ月に1回程度の勉強会を実施。事例発表や先進事例、研究テーマの発表内容の選定が難しく、隔月開催になっている。勉強会では皆さん積極的な意見交換ができ、活動内容は充実している。
- ・CITP：4回(名古屋1回 毎回2時間、石巻シンポジウム・合宿1泊2日)の全体コミュニティ会合を実施した。11月には、本会東北支部と石巻市の後援、石巻専修大学と連携してシビックテックを開催した。また、2019年度版アニュアルレポートの発行を行った。2020年版も予定している。

② ITフォーラム2020において、関連団体*との連携イベントを推進した。

※先端IT活用推進コンソーシアム(AITC)

6.4 AIプログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

① 学生および若手技術者の育成を目的として、世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2019-20」を開催した(オンライン予選と決勝戦)。1月20日(日本時間1月21日21:00JST)を締切としたオンライン予選には、37チームの参加があった。

② 新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催が中止となったため予選同様オンラインにて開催した。国際：1チーム、国内：15チームの全16チーム30名が予選結果から選抜された。

6.5 各支部による支部連合大会、講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会、講習会、講演会、セミナー、国際ワークショップ、ジュニア会員向けイベント等、各支部において活発に活動がなされた。なお、一部のイベントに関しては新型コロナウイルス感染症の影響に

より開催中止・延期となった。詳細は、付録2 (p. 43~p. 44) および付録5 (p. 53) に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※発刊状況の詳細は付録3 (p. 45) に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第60巻5号から第61巻4号まで計12号（本文1,324ページ，広告64ページ，平均発行部数16,550部／号）を編集発行した。
- ② 稲見編集長のもと「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。
- ③ 学会Webとの連動企画として，昨年に引き続き9月号「研究会推薦博士論文速報」では，本誌に簡略版，Webにその詳細を掲載した。
- ④ 4コマ漫画「IT日和」を終了し，新たにさまざまなITに関する企画を取材し，マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を開始した。
- ⑤ 会議レポートの掲載数を増やし，会員へ国内外会議の周知，また積極的な参加を呼びかけた。
- ⑥ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」，著名人による「巻頭コラム」，連載「古機巡礼/二進伝心」，連載「ビブリオ・トーカー私のオススメ」，連載「5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み」，連載「情報の授業をしよう!」，連載「集まれ! ジュニア会員!!」，連載「先生，質問です!」，教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し，概ね好評を得た。また，書籍化した「ビブリオ・トーカー私のオススメ」の今年度の販売部数は50部であった。
- ⑦ 気軽に読める技術者向け製品紹介のページとして，連載「買い物自慢」を開始した。
- ⑧ 論文投稿者向けの連載「論文必勝法」を開始し，大好評を得た。
- ⑨ 新入生，新入社員向けの特集「フレッシュマンに向けたプログラミングのススメ」（60巻6号），高専特集「未来の学びを主導する高専教育」（60巻7号）などを掲載した。
- ⑩ 話題のSF漫画『AIの遺電子』とコラボレーションした特集「『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術」（61巻1号）を掲載した。

(2) その他，広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告をWebカタログとして学会Web上に掲載するサービスを継続した。
- ② 学生向けの「就職情報」の掲載企業は26社であった。
- ③ 学生向けのサービスとして新たに「インターンシップ情報」（60巻7号付録）を開始した。掲載企業は13社であった。
- ④ メールニュースをより魅力的なものとするため，昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ⑤ App Storeでの会誌電子版の販売を終了し，Kindleでの販売を開始した。またFujisanにて特集別刷電子版の販売を継続した。
- ⑥ 読者から要望の多かった，会誌を1冊まとめてダウンロードできるPDFを電子図書館に掲載した。
- ⑦ IPSJメールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
- ⑧ 58巻4号特別企画として作成した「情報処理学会LINEスタンプシール」のダウンロード数は11,129件となった。
- ⑨ 学会の知名度向上をはかるため，技術書の展示会「技術書典7」に会誌編集委員会として出展し，学会

オリジナルTシャツ、会誌特集別刷を作成して販売した。

- ⑩ 全国大会において開催予定であった「『先生、質問です!』公開セッション」は新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催を中止し、clusterを使ったバーチャル空間でイベントを開催した。
- ⑪ デジタルプラクティス WG (DWG) を新設した。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※各発行状況の詳細は付録3（p.45～p.47）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、235編（含JIP preprint52編）が掲載された。招待論文を1編および特集号を17号発行した。ジャーナル/JIP編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が会員）し、投稿と同時に第一著者35%の方が入会をした。全国大会でイベント企画「論文必勝法」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

- ② 国際会議等で発表済みの研究内容をジャーナル/JIPに投稿する際の自己引用に関する規則を整備し、著作権に関する取扱いを明確化した。
- ③ マルチメディアコンテンツを含む論文についての公開方法や著作権等の諸課題の検討を進めた。
- ④ 論文誌編集委員の貢献に報いるため、論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP編集委員会]

年間論文掲載数の目標70編に対して掲載件数は73編（うち招待論文4編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。

(3) トランザクション（10誌） [所掌：各トランザクション編集委員会]

- ① 研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10誌を年度内に計38回発行した。トランザクションの掲載論文は計118編（含JIP preprint21編）となった。
- ② DP誌の一部を論文誌（トランザクション）に再編する方針を決定し、規約改正と発行の準備を進めた。

(4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」 [所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

- ① 論文誌「デジタルプラクティス」通巻38号～41号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った（招待論文27編、特集号投稿論文7編、一般投稿論文10編、推薦論文1編を掲載）。
- ② DP掲載論文から電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）の候補を推薦し、3名が受賞した。本会からの推薦以外にも、DP掲載論文に関連する案件3件が電気科学技術奨励賞（旧オーム賞）を受賞した。
- ③ FIT2019ではイベント企画「働き方改革とIT～デジタルプラクティスライブ～」を行った。
- ④ 著者に、より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために「デジタルプラクティス論文賞」の選考を行った。全国大会での表彰を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催が中止となったため、次年度総会の交流会で行うこととした。
- ⑤ App store「情報処理学会」アプリ終了に伴い「デジタルプラクティス」の配信も終了した。それによりランニングコストが削減された。
- ⑥ 第82回全国大会で企画セッション「DXを推進する俊敏なシステム開発・運用—アジャイルにつなぐ

ビジネスと ICT—～デジタルプラクティスライブ～」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

- ⑦ 実務現場における知見を社会全体で広く共有することを目的とし、FUJITSU ファミリー会における企業実践論文との提携を開始した。日立 IT ユーザ会、NEC C&C システムユーザー会との提携も検討中。
- ⑧ 「デジタルプラクティス」は 43 号をもって現在の形態を終了し、44 号よりトランザクション (TDP)、会誌のコンテンツ (デジタルプラクティスコーナ (仮称))、DP レポートの 3 本柱で再スタートすることとした。来年度は新体制がスムーズに進むよう、規程の改正や委員の補充などを実施する。

(5) その他

- ① 各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞、デジタルプラクティス論文賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 49, p. 53) に掲載する。
- ② 創立 60 周年記念論文の審査方法や審査スケジュールを策定し、2019 年 12 月より公募を開始し 14 件が応募された。

8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

「IT Text データベースの基礎」を刊行した。また既企画のメンテナンスを中心に活動を行い、重版を 19 冊行った。委員を新たに 2 名追加した。

8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会、コンピュータ博物館小委員会]

- ① 「情報処理技術遺産」5件と「分散コンピュータ博物館」1件の関連調査と認定を行った。(情報処理技術遺産累計：108件、分散コンピュータ博物館累計：10件)。詳細は付録5 (p. 53) に掲載する。
- ② 「コンピュータ博物館」に英語版12版 (OCRカテゴリ)、英語版13版 (遺産認定機器の追加、年表に記載されていて解説のない項目に解説を追加) の公開を行った。
- ③ 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は、457,194件 (日英合わせ)、転載数20件であった。
- ④ 第82回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」をする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
- ⑤ オーラルヒストリー1件を会誌に掲載した。
- ⑥ 本会総会で「K-1」を展示した。
- ⑦ 雑誌「OHM」2019年6月号にコンピュータの歴史に関する特集記事を投稿した。

8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① サイトライセンスサービスは目標契約数通りの70件となった。
- ② 論文誌ジャーナル掲載論文へのdoi付与を検討した。
- ③ 電子図書館のユーザインタフェースの改善を行った。
- ④ 電子図書館の運用面を検討するWGを設立し、財政面、運用面、プラットフォーム等の検討に着手した。

9. 実施事業 6：標準化活動 (定款第 4 条 1 項 3 号)

9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

(1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

前年度から引き続き、メディア符号化 (SC29)、デジタル記録媒体 (SC23)、文字コード (SC2) などの

重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC1 総会（5 月ハワイ、11 月デリー）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長 4 件（全 22SC 委員会中）、セクレタリアート 5 件（全 22SC 委員会中）。その他、コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）13 件（85WG 中）、プロジェクトエディタ 延べ 84 名と昨年同様に貢献した。
- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。今年度から JTC1 総会が年 2 回開催されることになり、JAG(JTC 1 Advisory Group)の会議が開催されなくなった。それに伴い、JTC 1 直下にサブグループ 12 個（AG:Advisory Group 1 個、SWG:Special Working Group 2 個、SG:Study Group 7 個、AHG:Ad Hoc Group 2 個）が設置され、これに対応するため国内では、WG 以外のサブグループに一括して対応する JTC 1 サブグループ対応小委員会が活動を開始した。なおサブグループはその後、SWG, SG, AHG も全て AG とすることになり、2019 年度末時点で 14 個の AG が存在している。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては、新業務項目（NP）の提案(承認済)6 件、国際標準（IS）などの発行されたもの 11 件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催：JTC 1/SC 22, SC 24, SC 25, SC 34, SC 41, および SC 42 の計 6 件の国際会議を開催した。また、2020 年 11 月に岡山で開催される JTC 1 総会に向けて、着実に準備を進めている。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中、JTC 1 が取り組むテーマが ISO, IEC, および ITU-T と重複する傾向が進んでいるため、JTC 1 と連携テーマがある ITU-T への国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。260 回の標準化国際会議への参加者は、延べ 881 人であった。
- ② 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

(3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 前年度に引き続き、委員会活動を広く紹介するための一般向けの広報誌としての活動報告を年 1 回発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラム（2019年5月21日）：日本電信電話（株）高橋克巳氏による「データ利活用について―技術面から―」、弁護士・ひかり総合法律事務所／理化学研究所革新知能統合研究センター客員主管研究員／国立情報学研究所客員教授 板倉陽一郎 氏による「データ利活用について―法制面から―」の2件の講演を実施した。
- ③ SC42「AI×IoT の社会実装と標準化における課題と取り組み」、SC29「JPEG/MPEG 標準化の最新動向 2019～2020 年に向けた活動状況～」、SC7「事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用」の 3 件の短期集中セミナーを実施した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 54) に掲載する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP 委員会]

- ① IFIP 日本代表，各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会（10月12日～13日キエフ（ウクライナ））に村山 IFIP 日本代表(兼 IFIP Vice President) が参加した。
- ② 2020年の IFIP 総会より，IFIP 日本代表が村山優子氏から相田仁氏に交代することとした。
- ③ 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌（3月号）への活動報告，会議レポートの掲載のほか，メールニュース，Web を利用した情報発信を行った。
- ④ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) へ継続的に参画している（IP3は2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された）。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2019年7月15日～19日にアメリカ ウィスコンシン州にて開催された The 43rd Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2019) への技術協力を行った。
- ② 第82回全国大会において IEEE-CS 会長 Leila De Floriani 氏を招聘し招待講演を行い，IEEE-CS と当学会の情報交換を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Representation and analysis methods for spatial data visualization」
- ③ 2019年6月にフロリダ州で開催された IEEE-CS BoG meeting に本会論文誌担当理事が参加した。
- ④ 姉妹学会 MOU を継続し，会員向けの連携サービスを継続。
- ⑤ IEEE-CS と本会との Joint Award として，「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」2名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

- ① ACM と本会との Joint Award として，「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
- ② 第82回全国大会において，Joint Award 表彰式と ACM 会長 Cherri Pancakes 氏のメッセージ披露を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
 - ・10月に中国，12月に韓国にて3学会によるCJK Meetingを行い交流を深めた。
 - ・10月のCCFの年次大会に本会から会長が出席した。また，CJK Joint Technical Forumへ参加した。
 - ・12月のKIISEの年次大会に本会から副会長が出席した。
 - ・第82回全国大会において，CCF President and Fellow Hong Mei 氏を招聘し招待講演を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Big Data in China」
 - ・第82回全国大会において，KIISE2020会長 Yunmook Nah 氏を招聘し招待講演を予定していたが，新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。
予定演題「Data Center Trends: Infrastructure for Intelligent Society」
- ② 他の海外学会との協力関係の継続
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに，アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて

意見交換や相互訪問を行った。

- ・ Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
- ・ Australian Computer Society (ACS)
- ・ SEARCC (South East Asian Regional Computer Confederation)
- ・ Computer Society of India (CSI)

③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催 (3 件)

※開催状況の詳細は付録4 (p. 48) に掲載する。

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会への参加、電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」ほか、研究発表会および学術講習会において、関連学協会等と適宜共催を行った。また、土木学会、電子情報通信学会と連携し第 43 回土木情報学シンポジウムの開催に協力した。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

「日本機械学会 第 32 回計算力学講演会」（一般社団法人 日本機械学会主催，2019 年 9 月 16 日～18 日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 140 件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

「The 8th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2020 (ICISIP2020)」（一般社団法人 産業応用工学会主催，2020 年 8 月 27 日～31 日開催）ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 17 件を行った。

1 2. 法人運営

12.1 入会促進

(1) 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。ジュニア会員については、ジュニア会員向けの諸活動が功を奏し増加となったものの、正会員の減少は依然継続しており、学生会員の入会も伸び悩み、今年度の個人会員合計は昨年度に比べ 99 名の減少となった。

- ① ジュニア会員制度を推進し若い世代の入会促進に努めた。

- ② 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。
- ③ 連続セミナー・IT フォーラム 2020 の開催、デジタルプラクティス改革など実務家・IT エンジニアに向けた活動を推進した。なお、入会費用の無料施策により今年度は、CITP 認定者のうち 31 名（個人 7 名、企業 24 名）の無料入会があった。
- ④ 産業界に属する会員への学会価値向上に向けて検討を行った。
- ④ 2020 年度に小中校教員新規入会キャンペーンの実施に向けた検討を進めた。

(2) 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会（時限）のもと、ジュニア会員関連施策の横連携の強化を図り、ジュニア会員向けサービスの強化、ジュニア会員が学生会員や正会員として会員を継続するようなフォローに関する検討を継続した。
- ② ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知するとともに、ジュニア会員向けのセミナー「Exciting Coding! Junior」（2 回）、会誌「先生、質問です！」コーナー新設、ジュニア会員の論文掲載料無料化、支部でのジュニア会員向けイベント等々の施策を行い、学生会員育成活動を推進した。なお、全国大会での開催を予定していた中高生によるポスターセッション（中高生情報学研究コンテスト）は、新型コロナウイルス感染症の影響により全国大会の現地開催が中止となった為、オンライン審査により行った。
- ③ 学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
- ④ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。
- ⑤ 学会ホームページ上でのジュニア会員向け Web ページのコンテンツを整備、リニューアルし入会メリットの訴求に努めた。

12.2 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言活動を推進し、文部科学省第 6 期科学技術基本計画を念頭に、近未来に向けたチャレンジングな研究課題を官民間で共有することを目指した「情報学の次世代」検討会に参加、協力を行った。

12.3 運営体制の充実・改善等

(1) 新世代発想の学会運営への取り込み

- ① 第 82 回全国大会において、IPJSJ-ONE（第 77 回に開始）を引き続き実施し、さらに、初音ミクのファンメイドミニライブとして IPJSJ-39（ミク）を電気通信大学のバーチャルライブ研究会の協力を得て実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症による影響で全国大会の現地開催が中止となった為、開催を中止した。
- ② 2018 年度に開始した会誌記事「先生、質問です！」の連載を引き続き行い、情報系の研究の魅力や情報社会の方向性に関する情報発信を行った。
- ③ 学生会員・ジュニア会員の入会促進、そして育成に資するサービスやイベントの充実に向け、プログラミング教育を手掛けるスタートアップと協力関係を築いた。
- ④ 民間企業との共同研究を促進させるために、情報学広場のコンテンツを活用した共同研究マッチングのスキームについて、民間共同研究マッチング企業と連携を開始した。

(2) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事のもと、各事業の健全な継続性に向けてまずは現状把握と課題の洗い出しを中心に、各担

当理事および支部長から意見を収集し検討を進め課題整理を行った。引き続き次年度に向けて各課題の解決方法等の検討を進めていく。

(3) アドバイザリーボードによる運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザリーボードミーティングを2019年7月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

(4) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter ならびに App Store への会誌とデジタルプラクティスの掲載、本会公式ニコニコチャンネルなどソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPJSJ メールニュースの内容充実を図った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニタ会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。
- ④ 学会の重要な広報チャンネルである学会ホームページについて、わかりにくいとの声が多数寄せられているため、まずは現状の問題点の洗い出しに着手。今後優先順位をつけて改善を推進する。

(5) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

今年度は、2018年度に運用を開始した学会システムの拡充、全支部 Web サイトの ISP を統一し、セキュリティ強化を行った。

(6) 2018年度監事付帯意見への対応

2018年度監事付帯意見（2019年6月開催の第636回理事会に監事が提出）について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を644回理事会（2020年4月）で報告した。監事付帯意見は、各事業の評価と継続・維持・統廃合の判断について、ジュニア会員の継続的獲得の2項目からなり、前者については、企画政策委員会、長期戦略理事が中心となって今年度まずは各事業の現状把握と課題の洗い出しを中心に検討を進め、次年度はその解決方法について財務的な視点も含め進めていくこととした。また後者については、この活動の主旨として単に本会の有料学生会員を増やすということだけが目的ではなく、今後「情報」の重要性が高まっていく中で我が国の情報分野に関わる人の層を厚くし、広げていくというような視点こそが重要であり、ジュニア会員活性化委員会ではこうした視点での施策並びに効果の観察法についても検討を継続しつつ、ジュニア会員向けの各種施策やジュニア会員の拡大並びに定着化を図っていく。

(7) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また、最高裁に対し知的財産権担当専門委員17名の推薦を行った。

(8) 参加しやすい総会を目指した取り組み [所掌：総務財務運営委員会]

普段交流の少ない賛助会員にも学会活動に親しんでもらうことを目指し、2019年6月の総会において講演会（「Situation as a New Computational Abstraction for Human-Embedded Computing」, 「企業研究者から政治の世界へ～ICTを活用した政策の実現に向けた取り組み」）や交流会の実施、本会コンピュータ博物館の歴史遺産の一つである「トランジスタ計算機 K-1」の展示を行い24社のご参加を頂いた。また、歴代会長の懇談会を行い、学会に関する意見交換を行った。

(9) ダイバーシティへの取り組み [所掌：Info-WorkPlace委員会]

- ① IT界における後期高齢者ロールモデルとして若宮正子氏のインタビューを行い、会誌60巻6号に記事を掲載した（60巻6号）。
- ② 第81回全国大会で行ったイベント企画「来たれ！ワークライフバランス伝道師」の登壇者執筆による

小特集「ワークライフバランス」を編集し、会誌 60 巻 8 号に掲載した。

- ③ 2019 年 8 月に行われたイベント「女子中高生夏の学校 2019～科学・技術・人との出会い～」に唯一の情報系団体として出展した。
- ④ 12 月 15 日に親子で情報処理技術に触れるワークショップ「電子工作でクリスマス飾りを作ろう会 2019」を enPiT WiT 女性部会と共催した。

12.4 その他表彰等

(1) 顕彰, 名誉会員・フェローの選定など

功績賞, 学会活動貢献賞の贈呈のほか, フェロー認定, 情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録 5 (p. 49, p. 53) に掲載する。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために, 監査法人のほか弁護士, 税理士, 社労士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は 27 名 (本部 20 名, 規格 7 名, 前年末は 28 名) である。

以上

<p>議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：20名</p>	<p>1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告（3月～5月）〔総務〕 2. 期末会計監査結果報告書：詳細（監査法人）〔総務〕 3. 2019年度定時総会以降の役員担当業務等（予定）〔総務〕 4. 第180回総務財務運営委員会議事録〔総務〕 5. 2019年度第2回企画政策委員会議事録〔企画〕 6. 2018年度監事監査報告および付帯意見〔監事〕 参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>第637回理事会 2019年6月5日</p> <p>議長：岡部寿男（副会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：25名</p>	<p><承認事項> 1. 代表理事（会長・副会長）および業務執行理事の選定</p>	<p>承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2019年6月20日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも27名</p>	<p><法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2019年5月の新規入会申請〔総務〕 2. Info-WorkPlace委員会規程について〔会誌〕 3. シンポジウム等の開催願い〔調査研究〕 4. FIT運営委員会規程改訂について〔事業〕 5. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 6. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕 7. 情報規格調査会委員の変更〔標準化〕</p> <p><法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2019年5月期開催会議〔総務〕 2. 2019年5月月次損益管理表〔財務〕 3. 第48回新世代企画委員会議事録〔新世代〕 4. 第11回Info-WorkPlace委員会議事録〔総務〕 5. 第10回日本学術振興会育志賞の推薦について〔総務〕 6. 理事からのメッセージ〔会誌〕 7. 第113回歴史特別委員会議事録〔会誌〕 8. 第84回調査研究運営委員会議事録〔調査研究〕 9. 第58回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕 10. 第106回デジタルプラクティス編集委員会議事録、特集一覧〔技術応用〕 11. 第52回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕 12. 第60回個人認証審査委員会議事録〔技術応用〕 13. 第366回規格役員会議事録〔標準化〕</p>	<p>承認 承認 承認 一部承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>第638回理事会 2019年6月26日</p> <p>議長：江村克己（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：22名</p>	<p><承認事項> 1. ASP-DAC2021国際会議開催申請書〔調査研究〕 2. IWSEC2018国際会議終了報告書〔調査研究〕</p> <p><審議事項> 1. 2018年度監事付帯意見への対応依頼について〔企画〕</p> <p><報告事項> 1. 第181回総務財務運営委員会議事録〔総務〕 2. 2019年度第3回企画政策委員会議事録〔企画〕 3. アドバイザリーボードについて〔企画〕 4. 入会促進活動ご協力のお願い（ジュニア会員向け活動紹介）〔総務〕 5. FIT2019スポンサー獲得および集客のご協力依頼〔事業〕 参. 理事会アクションアイテムリスト</p>	<p>再提出 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>第639回理事会 2019年7月22日</p> <p>議長：江村克己（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも27名 出席理事数：23名</p>	<p><承認事項> 1. 創立60周年記念事業関係（創立60周年記念実行委員会）〔総務〕 （1）各記念事業の進捗状況報告・確認 2. 退職金制度の見直しについて（退職金規則改訂案）〔総務〕 3. 中長期戦略のアプローチについて〔企画〕 4. GSC「情報科学の達人」育成官民協働プログラムについて〔企画〕 5. ソフトウェアジャパンの運営の見直しについて〔技術応用〕</p> <p><審議事項>（該当なし）</p> <p><報告事項> 1. 第182回総務財務運営委員会議事録〔総務〕 2. 2019年度第4回企画政策委員会議事録〔企画〕 3. 第462回論文誌ジャーナル/JIP 編集委員会（幹事会）議事録抜粋、特集一覧〔論文誌〕 4. 第82回全国大会スポンサー・出展募集およびSamurai Coding2019-20スポンサー募集のご支援について〔事業〕</p>	<p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 創立60周年記念事業

1.1 記念事業実行委員会

◎江村克己、○岡部寿男、○中川八穂子、平井規郎、窪田 歩、栗原英俊、田中淳裕、寺田 努、本田新九郎、中野美由紀、長 健太、楠 房子、清水佳奈、湊 真一、下條真司、東野輝夫、発田 弘

[7月22日、11月21日、'20年3月27日] 記念事業全体の推進

1.2 記念全国大会運営委員会（=第82回全国大会運営委員会）

◎/△岡部寿男、●/△中野美由紀、△長 健太、倉本 到、中沢 実

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 記念全国大会の推進

1.3 記念全国大会プログラム委員会（=第82回全国大会プログラム委員会）

◎中沢 実、○河並 崇、△中野美由紀、△長 健太、斎藤正史、中沢 憲二、楠 房子、長尾篤樹、佐藤未来子、青木秀一、谷田英生、古川雅子、中田眞城子、井上弘士、三村 守、土田修平、大平雅雄、千石 靖

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 記念全国大会の企画・運営・実施

1.4 記念会誌編集委員会（=会誌編集委員会）

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田眞城子、△楠 房子、△清水佳奈、井本和範、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、川上 玲、佐藤史子、城島貴弘、須川賢洋、田名部元成、鳥澤健太郎、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、茂木和彦、湯村 翼、谷田英生、坂東宏和、金子 裕、間瀬正啓、戸田貴久、山本優歌、吉野松樹

[4月15日、5月13日、6月10日、7月1日、8月19日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'20年1月15日、2月17日、3月2日]

記念会誌の企画・編集

1.5 記念論文選定委員会（=論文誌担当理事、調査研究担当理事、各論文誌編集長）

◎湊 真一、小川剛史、清原良三、倉本 到、斎藤英雄、柴山悦哉、下條真司、高橋篤司、竹中要一、建部修見、中山泰一、灘本明代、並木美太郎、西垣正勝、西田知博、西田直樹、藤井 敦、棟朝雅晴、吉川正俊

[電子メールベース] 記念論文の企画・選考

1.6 60年のあゆみ編纂委員会

◎東野輝夫、○岡部寿男、浅井光太郎、伊藤 智、屋代智之、寺田 努、柴山悦哉、中川八穂子

[6月3日、9月17日、11月8日、12月10日、12月26日、'20 1月20日、1月29日、2月21日] 60年のあゆみ編纂の推進

1.7 記念出版委員会

◎発田 弘、○旭 寛治、△楠 房子、△清水佳奈、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[1月26日] 情報処理技術遺産とオーラルヒルトリの書籍化推進

1.8 記念式典実施委員会

◎岡部寿男、○中川八穂子、○窪田 歩、○田中淳裕、平井規郎、栗原英俊

[7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日] 記念式典開催の推進

1.9 記念事業総務財務委員会

◎岡部寿男、○中川八穂子、平井規郎、栗原英俊、窪田 歩、田中淳裕

[5月29日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

記念事業の全体調整／予算執行管理／記念式典の企画立案

2. 法人運営

2.1 企画政策委員会

◎/△岡部寿男、○/△中川八穂子、川原圭博、倉本 到、栗原英俊、高橋克巳、寺田 努、並木美太郎、平井規郎、鬼塚 真、小野寺民也、窪田 歩、田中淳裕、西垣正勝、西山博泰、本田新九郎

[4月24日、5月29日、6月19日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

監事付帯意見対応／アドバイザーボード対応／中長期戦略に関する検討／会員サービスに関する検討ほか

2.2 政策提言委員会

◎/△岡部寿男、○/△寺田 努、本田新九郎、小野寺民也、倉本 到、栗原英俊、高橋克巳、並木美太郎、西垣正勝、平井規郎

[電子メールベース] パブコメ対応 ほか

2.3 総務財務運営委員会

◎/△中川八穂子、○/△平井規郎、○/△栗原英俊、△窪田 歩、△田中淳裕、△高橋克巳、△小野寺民也

[4月24日、5月29日、6月19日、7月12日、9月10日、10月24日、11月12日、12月5日、'20年1月16日、2月27日、3月16日]

総会関連事項/損益状況/研究倫理対応/その他運営上の諸課題の検討対応

2.3.1 本部・規格連絡会

◎中川八穂子、○/△伊藤 智、○栗原英俊、平井規郎、○関 喜一、河合和哉、山本英朗、福田昭一、伊藤雅樹、落合真一

[12月26日] 本部・規格調査会間の連絡

2.4 情報システム委員会（電子化委員会より名称変更）

◎栗原英俊、○田中淳裕、窪田 歩、砂原秀樹、平井規郎

[6月4日、8月7日、10月11日、'20年1月24日] 情報システムに関する諸対応

2.4.1 セキュリティ委員会

◎砂原 秀樹、大谷和子、△窪田 歩、△栗原英俊、佐々木良一、△田中淳裕、寺田真敏、鳥居 悟、△平井規郎、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

2.5 新世代企画委員会

◎川原圭博、○鬼塚 真、△小野寺民也、五十嵐悠紀、梶川 光一、鍛冶口結衣、桂井麻里衣、△楠 房子、△栗原 英俊、樺 惇志、△高橋 克巳、田島 玲、△中野美由紀、△平井規郎、村尾和哉、譲原洸樹

[4月24日、5月22日、7月5日、8月20日、9月27日、12月18日、'20年1月22日、2月27日]

新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

2.6 Info-WorkPlace委員会

◎木塚あゆみ、△倉本 到、楠 房子、清水佳奈、伊東 香、大場みち子、小山清美、加藤由花、佐藤真一、高橋尚子、田島 玲、長 健太、永瀬美穂、中野美由紀、西山博泰、坊農真弓、渡辺知恵美

[6月12日、10月24日、'20年1月30日] ダイバーシティ社会を活性化するための施策を検討、実施

2.7 ジュニア会員活性化委員会（時限）

◎佐藤真一、○高橋尚子、川原圭博、楠 房子、田島 玲、寺田 努、中野美由紀、鬼塚 真、清水佳奈、長 健太、西山博泰、本田新九郎、伊藤一成、兼宗 進、北村操代、杉田由美子、高岡詠子、吉田 葵、和田 勉

[7月9日、9月18日、12月24日、'20年3月24日] ジュニア会員向け活動の活性化

2.8 データサイエンティスト戦略委員会（時限）

◎中川八穂子、○岡部 寿男、佐藤 真一、高橋 尚子、加藤 浩、萩谷 昌己、浅井 光太郎、田島 玲、西山 博泰、西 直樹、旭 寛治、掛下 哲郎、*小野寺 民也、*高橋 克巳

['20年3月16日] データサイエンティスト領域における当会の活動についての基本方針策定

2.9 支部長会議

◎/△江村克己、△岡部寿男、△中川八穂子、△平井規郎、△栗原英俊、△窪田 歩、△田中淳裕、各支部長：杉本雅則（北海道）、大町真一郎（東北）、大島哲也（東海）、堀田裕弘（北陸）、増澤利光（関西）、會澤邦夫（中国）、高橋 寛（四国）、梅田政信（九州）

[9月20日、12月11日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

2.10 アドバイザリーボード

◎中村道治、荒川 薫、有川節夫、稲田修一、井上友二、宇治則孝、小原 格、辻 篤子、永井良三、藤原 洋

[7月8日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

3. 調査研究活動

3.1 調査研究運営委員会

◎/△倉本 到、○/△並木美太郎、○/△西垣正勝、石川佳治、清原良三、小林 稔、酒井哲也、西田知博、森嶋厚行

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2019年6月13日	1. 2019年度委員構成確認 2. 2020年度調査研究活動への学会補助額について 3. 2020年度共通費の賦課について 4. 2020年度シンポジウム事務諸費について 5. 60周年記念会誌特集号「2050年の情報処理」について 6. 退任主査への貢献賞の授与について	確認 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認・継続審議
2019年10月2日 (調研・3領域合同)	1. 2020年度研究会登録費算定方法 2. 研究会の継続・新設について 3. 情報学の次世代検討会報告	承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 確認
2020年3月25日	1. 情報保障への補助について 2. 新型コロナウイルス感染症への対応について 3. 研究会活動貢献賞について 4. 監事付帯意見への対応状況／事業報告／事業計画 5. 2019年度活動状況／2020年度計画 6. 第33回IFIP委員会報告	承認 確認 確認 確認 確認 確認

3.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△並木美太郎、○森嶋厚行、井上弘士、岩下武史、光来健一、関嶋政和、瀧本英二、田宮 豊、西田直樹、丸山勝久、吉川正俊、渡辺晴美

2019年6月28日	領域共通-1. 2019年度山下記念研究賞 領域共通-2. 2020年度調査研究活動への学会補助額について 領域共通-3. 2020年度共通費の賦課について 領域共通-4. 2020年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-5. 60周年記念会誌特集号「2050年の情報処理」について 領域共通-6. 2018年度調査研究活動状況および決算報告	選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認 確認 確認
2019年10月2日 (調研・3領域合同)	調査研究運営委員会に同じ。	
2020年2月18日	領域共通-1. 2020年度領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 監事付帯意見への対応状況／事業報告／事業計画 領域共通-3. 2019年度活動状況／2020年度計画 領域共通-4. 第33回IFIP委員会報告	確認・承認 確認 確認 確認

3.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△西垣正勝、○清原良三、秋元良仁、井上創造、太田 賢、木村朝子、児玉公信、斉藤典明、重野 寛、田上敦士、寺田真敏、内藤 整、難波英嗣、松浦 博、水野慎士、宮下健輔、森信一郎、山内利宏

[7月11日、10月2日(調研・3領域合同)、'20年2月26日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△倉本 到、○西田知博、井村誠孝、緒方広明、兼宗 進、川村秀憲、倉田博之、澤田秀之、鹿内菜穂、関根 聡、鶴岡慶雅、土橋宜典、中野倫靖、長原 一、西村雅史、原田要之助

[7月25日、10月2日(調研・3領域合同)、'20年2月19日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

4. 人材育成活動

4.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎西 直樹、○吉野松樹、△田島 玲、△西山博泰、旭 寛治、掛下哲郎、笥 捷彦、玉井哲雄、林 雅弘、深澤良彰

[4月16日、5月23日、6月17日、7月29日、9月12日、10月24日、11月22日、12月20日、1月31日、2月28日、3月27日]

認定情報技術者制度の検討

4.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎萩谷昌己、●佐渡一広、○辰己丈夫、○松永賢次、△佐藤 真一、△高橋尚子、石川 洋、稲垣知宏、植原啓介、上松恵理子、大岩 元、角田博保、笥 捷彦、掛下哲郎、加藤 浩、金寺 登、*神沼靖子、兼宗 進、久野 靖、斎藤俊則、酒森 潔、高岡詠子、高田真吾、長尾和彦、中谷多哉子、中山泰一、松澤芳昭、美馬のゆり、*鷲崎弘宜、和田 勉

[5月14日、7月2日、9月10日、11月19日、'20年1月20日、3月17日]

JABEE対応／情報学分野の参照基準／次期学習指導要領改訂／免許更新講習／傘下の小委員会報告ほか

5. 事業活動

5.1 事業運営委員会

◎/△中野美由紀、●/△長 健太、西垣正勝

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

5.2 全国大会運営委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△岡部寿男、●/△中野美由紀、△長 健太、倉本 到、中沢 実

[6月27日、8月20日、12月5日ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

5.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎岡部寿男、●佐藤洋一、○柏野邦夫、中川八穂子、△中野美由紀、西垣正勝、前田英作、佐藤真一、金子寛彦、△長 健太、宇都木契、椿 郁子、河村 圭、松高 靖、寺尾 真、蔵田武志

[7月10日、10月15日ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

5.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎横山大作、浅野智之、大島 聡、大日向大地、新屋良磨、対馬かなえ、三廻部 大

[5月31日、10月17日、12月16日、'20年2月26日] 夏のプロシン／若手の会／冬のプロシンの開催推進

5.5 プログラミングコンテスト委員会

◎平石 拓、*鷺崎弘宜、△寺田 努、△長 健太、近山 隆、深澤紀子、坂本一憲、高田真吾、田中哲朗、小林祐樹、河内谷清久仁、三輪 誠、横山大作

[6月17日、7月16日、8月26日、9月27日、10月31日、11月29日、'20年1月27日、3月13日]

プログラミングコンテストの開催推進

5.6 技術応用運営委員会

◎浅井光太郎、○中川八穂子、○/△田島 玲、△西山 博泰、窪田 歩、田中 淳裕、本田 新九郎、細野 繁、旭 寛治、西 直樹、高橋 克巳、*吉野松樹

[7月3日、8月30日、12月6日、'20年3月19日 ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

5.7 ITプロフェッショナル委員会

◎旭 寛治、△平井規郎、△田島 玲、筧 捷彦、掛下哲郎、西 直樹、林 雅弘、深澤良彰

[11月8日 ほか電子メールベース] 情報処理技術者のプロフェッションの確立と人材育成

5.8 セミナー推進委員会

◎/△田島玲、○/△西山博泰、荒木拓也、北村操代、那須川哲哉、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、杉田由美子、平山敏弘、海老澤竜、福島俊一、青木秀一、吉田 葵、稲葉 利江子

[4月19日、5月24日、6月20日、7月22日、9月10日、10月11日、11月11日、12月16日、'20年1月31日、2月25日、3月]

連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

5.9 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎/△田島 玲、○/△西山 博泰、諏訪良武、河合 洋、平林元明、河口信夫

[7月3日、8月30日、10月21日、12月6日、'20年3月27日 ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

6. 会誌

6.1 会誌編集委員会

◎稲見昌彦、○大山恵弘、○加藤由花、○中田真城子、△楠 房子、△清水佳奈、井本和範、江渡浩一郎、大石康智、大川徳之、太田智美、川上 玲、佐藤史子、城島貴弘、須川賢洋、田名部元成、鳥澤健太郎、福地健太郎、坊農真弓、水野加寿代、茂木和彦、湯村 翼、谷田英生、坂東宏和、金子 格、間瀬正啓、戸田貴久、山本優歌、吉野松樹

[4月15日、5月13日、6月10日、7月1日、8月19日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'20年1月15日、2月17日、3月2日]

全回共通：会誌の編集刊行

7. 機関誌／出版活動

7.1 論文誌運営委員会

◎/△湊 真一、△倉本 到、△下條真司、△並木美太郎、△西垣正勝

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

7.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎柴山悦哉、○/△湊 真一、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ

*Adam KOZYNIAK、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KAMDEM

【海外編集委員】 Audun JOSANG（ノルウェー）、Jungsuk SONG（韓国）、M. M. Hafizur Rahman（マレーシア）

[4月9日、5月8-9日、6月11日、7月3日、9月11日、10月3日、11月7日、11月29日、'20年1月16日、2月4日、3月10日]

全回共通：JIPの編集刊行

7.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎中山泰一、○/△湊 真一、○大平雅雄、○野呂正明、○波多野大督、○真鍋宏幸、阿倍博信、市野将嗣、片山 薫、末代誠仁、北原鉄朗、中嶋秀治、山田太造、和佐州洋

[4月9日、5月8-9日、6月11日、7月3日、9月11日、10月3日、11月7日、11月29日、'20年1月16日、2月4日、3月10日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

7.4 トランザクション運営委員会

◎/△湊 真一、柴山悦哉、小川剛史、清原良三、斎藤英雄、高橋篤司、竹中要一、建部修見、灘本明代、西田知博、西田直樹、藤井 敦、棟朝雅晴、吉川正俊

[11月12日] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7.5 デジタルプラクティス編集委員会

◎細野 繁、●茂木 強、●藤瀬 哲朗、△田島 玲、△西山 博泰、青木 学聡、荒木 拓也、粟津 正輝、飯村結香子、石井一夫、石黒剛大、今原修一郎、江谷典子、大嶋嘉人、鬼塚 真、上條浩一、斎藤彰宏、坂下 秀、佐藤 聡、佐藤裕一、澤谷由里子、澤邊知子、立床雅司、新田 清、浜 直史、濱崎雅弘、平井千秋、平林元明、藤原一毅、横井直明、吉野松樹 *喜連川 優

[4月26日、5月21日、6月18日、7月16日、9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、'20年1月21日、2月25日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

7.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△岡部寿男、○平井規郎、安達 淳、△ 楠 房子、△栗原英俊、△田島 玲、△中野美由紀、△ 西垣正勝、水野慎士、△湊 真一

[7月11日] デジタルコンテンツ事業の推進

7.7 出版委員会

△楠 房子、△清水佳奈、金子 格、嶋田義皓、阪田史郎

[11月25日、'20年3月12日] 実務書の出版企画に関する検討

7.7.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△楠 房子、△清水佳奈、駒谷昇一、辰己丈夫、田名部元成、中島 毅、山本里枝子、沼尾雅之、石井一夫、齊藤典明

[3月29日、7月5日、10月8日、12月25日、'20年3月25日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

7.8 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎発田 弘、○旭 寛治、△楠 房子、△清水佳奈、高橋義雄、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄

[6月5日、9月18日、'20年1月29日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

7.9 著作権委員会

◎△楠 房子、●△清水佳奈、天野真家、大谷和子、倉本 到、下條真司、田島玲、並木美太郎、西垣正勝、平井規郎、湊 真一

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

8. 標準化活動

8.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○関 喜一、△田中淳裕、山本英朗、成井良久（～9月）／田丸健三郎（10月～）、伊藤雅樹、東 充宏（～9月）／田昭一（10月～）、落合真一、*中野宏和

[4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月16日、11月19日、12月10日、'20年1月21日、2月18日、3月17日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

9. 国際活動

9.1 IFIP委員会

☆村山優子（IFIP日本代表）、◎/△倉本 到、○/△並木美太郎、○/△西垣正勝、廣川 直、五十嵐淳、齋藤俊則、中野 冠、相田 仁、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、栗原 聡、北村喜文、星野准一、掛下哲郎

[11月1日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2019meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム (DBS)	吉川正俊 (46)	386
ソフトウェア工学 (SE)	丸山勝久 (42)	440
システム・アーキテクチャ (ARC)	井上弘士 (28)	276
システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)	光来健一 (28)	235
システムとLSIの設計技術 (SLDM)	田宮 豊 (26)	228
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	岩下武史 (38)	451
プログラミング (PRO)	西田直樹 (27)	282
アルゴリズム (AL)	瀧本英二 (23)	174
数理モデル化と問題解決 (MPS)	関嶋政和 (28)	256
組込みシステム (EMB)	渡辺晴美 (26)	224
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	田上敦士 (39)	277
ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	木村朝子 (36)	408
情報システムと社会環境 (IS)	児玉公信 (21)	178
情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	難波英嗣 (10)	118
オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)	内藤 整 (13)	54
グループウェアとネットワークサービス (GN)	斉藤典明 (33)	190
ドキュメントコミュニケーション (DC)	秋元良仁 (8)	63
モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL)	太田 賢 (44)	223
コンピュータセキュリティ (CSEC)	山内利宏 (48)	588
高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)	重野 寛 (25)	138
ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)	井上創造 (37)	216
インターネットと運用技術 (IOT)	宮下健輔 (49)	390
セキュリティ心理学とトラスト (SPT)	寺田真敏 (20)	104
コンシューマ・デバイス&システム (CDS)	森信一郎 (34)	202
デジタルコンテンツクリエイション (DCC)	水野慎士 (17)	88
高齢社会デザイン (ASD)	松浦 博 (26)	88
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理 (NL)	関根 聡 (31)	440
知能システム (ICS)	川村秀憲 (5)	175
コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	長原 一 (62)	502
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学 (CG)	土橋宜典 (29)	216
コンピュータと教育 (CE)	兼宗 進 (43)	535
人文科学とコンピュータ (CH)	鹿内菜穂 (26)	220
音楽情報科学 (MUS)	中野倫靖 (29)	287
音声言語情報処理 (SLP)	西村雅史 (26)	192
電子化知的財産・社会基盤 (EIP)	原田要之助 (16)	100
ゲーム情報学 (GI)	鶴岡慶雅 (26)	199
エンタテインメントコンピューティング (EC)	井村誠孝 (18)	169
バイオ情報学 (BIO)	倉田博之 (14)	102
教育学習支援情報システム (CLE)	緒方広明 (24)	188
アクセシビリティ (AAG)	澤田秀之 (19)	72
*ネットワーク生態学 (NE)	鳥海不二夫 (--)	---
*会員の力を社会につなげる (SSR)	箕 捷彦 (--)	---
*情報処理に関する法的問題 (LIP)	高岡詠子 (--)	---
*ビッグデータ解析のビジネス実務利活用 (PBD)	石井一夫 (--)	---
[調査研究運営委員会]		
*オープンサイエンスと研究データマネジメント研究グループ (RDM)	山地一禎 (--)	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

*2020年2月下旬から3月に開催予定の研究発表会はコロナウィルス感染症の影響により

1.1 コンピュータサイエンス領域

実情に応じて開催中止・延期・オンライン開催

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第169回	2019年9月10日	工学院大学新宿キャンパス	20	76	電子情報通信学会
第170回	2019年12月23日～24日	国立情報学研究所	17	43	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第202回	2019年7月12日～14日	小樽経済センター	23	69	電子情報通信学会
第203回	2019年12月12日～13日	早稲田大学	10	32	
第204回	2020年3月2日～3日	化学会館	19	-	*オンライン開催

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第228回	2019年6月11日～12日	指宿温泉 休暇村 指宿	25	50	電子情報通信学会
第229回	2019年7月24日～26日	北見市民会館	37	96	電子情報通信学会
第230回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	16	77	電子情報通信学会
第231回	2020年1月22日～24日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	79	電子情報通信学会
第232回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	60	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第146回	2019年5月30日～31日	那覇市IT創造館	13	33	
第147回	2019年7月24日～25日	北見市民会館	17	42	
第148回	2020年2月27日～28日	高知工科大学永福キャンパス	13	38	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第188回	2019年5月15日	東京工業大学	7	30	電子情報通信学会
第189回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	39	102	電子情報通信学会
第190回	2020年1月22日～24日	慶應義塾大学日吉キャンパス	41	61	電子情報通信学会
第191回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	53	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第169回	2019年5月10日	海洋研究開発機構横浜研究所	10	64	
第170回	2019年7月24日～26日	北見市民会館	43	143	
第171回	2019年9月20日	国立情報学研究所	10	50	
第172回	2019年12月18日～19日	沖縄産業支援センター	24	62	
第173回	2020年3月16日～18日	北海道立道民活動センター	24	-	*開催中止

1.1.7 プログラミング研究発表会

第124回	2019年6月6日～7日	名古屋大学東山キャンパス	7	35	
第125回	2019年7月25日～26日	北見市民会館	13	33	
第126回	2019年10月30日～31日	国立情報学研究所	8	30	
第127回	2020年1月15日～16日	医療イノベーション推進センター	8	23	
第128回	2020年3月13日	早稲田大学西早稲田キャンパス	4	-	*オンライン開催

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第173回	2019年5月10日～11日	熊本大学	16	55	電子情報通信学会
第174回	2019年9月17日	信州大学長野(工学)キャンパス	6	20	
第175回	2019年11月28日～29日	旧大連航路上屋	25	49	電子情報通信学会
第176回	2020年1月29日～30日	下呂市民会館	7	34	併催：人工知能学会
第177回	2020年3月16日	東北大学	10	-	*開催中止

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第123回	2019年6月17日～19日	沖縄科学技術大学院大学	62	62	電子情報通信学会
第124回	2019年7月29日	MGM Resorts International	13	15	
第125回	2019年9月25日	カナモトホール	12	20	
第126回	2019年12月11日～12日	電気通信大学	15	29	
第127回	2020年3月2日～3日	松江市玉湯公民館	23	-	*開催中止

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第51回	2019年6月21日	東海大学高輪キャンパス	17	19	
第52回	2019年11月13日～15日	愛媛県男女共同参画センター	39	95	電子情報通信学会
第53回	2020年2月27日～28日	与論町中央公民館	48	55	電子情報通信学会

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第179回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	18	電子情報通信学会
第180回	2019年9月19日～20日	石川県政記念 しいのき迎賓館	23	32	
第181回	2019年12月26日～27日	アクトピア リゾート宮城蔵王	14	26	
第182回	2020年3月12日～13日	情報セキュリティ大学院大学	64	-	*オンライン開催

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第183回	2019年6月10日～11日	東京大学山上会館	21	76	電子情報通信学会/日本バーチャルリアリティ学会/ ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第184回	2019年7月22日～23日	北海道大学百年記念会館	18	40	
第185回	2019年12月10日～11日	淡路夢舞台国際会議場	29	32	
第186回	2020年1月15日～16日	大濱信泉記念館	36	64	
第187回	2020年3月16日	国士舘大学世田谷キャンパス	33	-	*オンライン開催

1.2.3 情報システムと社会環境研究発表会

第148回	2019年6月1日	武蔵大学江古田キャンパス	5	16	
第149回	2019年8月23日	東京電機大学東京千住キャンパス	7	26	
第150回	2019年11月23日～24日	名桜大学	17	28	
第151回	2020年2月28日	明治大学紫紺館	14	21	*オンライン発表も併用

1.2.4 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第135回	2019年7月6日	東京大学駒場1キャンパス	2	30	併催：人工知能学会
第136回	2019年9月10日	工学院大学新宿キャンパス	20	55	電子情報通信学会
第137回	2020年2月15日	東京工業大学大岡山キャンパス	2	9	
第138回	2020年3月27日	中央大学後楽園キャンパス	5	-	*開催中止

1.2.5 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第105回	2019年6月13日～14日	福江文化会館	15	35	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第106回	2019年9月19日～20日	新潟大学駅南キャンパス	20	75	電子情報通信学会/電気学会/ 映像情報メディア学会
第107回	2019年12月5日～6日	アイ・アイわて県民情報交流センター	24	93	電子情報通信学会/映像情報メディア学会
第108回	2020年2月27日～28日	沖縄ブルー電話	12	16	*オンライン発表も併用

1.2.6 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第108回	2019年5月9日～10日	東京農工大学小金井キャンパス	15	39	電子情報通信学会
第109回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	23	
第110回	2020年3月16日～17日	国士舘大学世田谷キャンパス	19	-	*オンライン開催

1.2.7 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第113回	2019年7月17日～18日	筑波大学計算科学研究センター	10	22	電子情報通信学会
第114回	2019年9月27日～28日	フューチャー株式会社	24	90	電子情報通信学会
第115回	2019年12月4日	セコム本社コムホール	4	25	
第116回	2020年3月27日	中央大学後楽園キャンパス	5	-	*開催中止

1.2.8 モバイルコンピューティングとバーベイスシステム研究発表会

第91回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	31	電子情報通信学会
第92回	2019年8月29日～30日	葉山港管理事務所	23	23	
第93回	2019年11月20日～22日	大和平群/奈良先端科学技術大学院大学	29	32	
第94回	2020年3月2日	名古屋大学IB電子情報館	57	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.9 コンピュータセキュリティ研究発表会

第85回	2019年5月23日～24日	大阪大学豊中キャンパス	20	58	電子情報通信学会
------	----------------	-------------	----	----	----------

第86回	2019年7月23日～24日	高知工科大学永国寺キャンパス	66	112	電子情報通信学会
第87回	2019年12月3日～4日	沖縄県立美術館・博物館	13	44	
第88回	2020年3月12日～13日	情報セキュリティ大学院大学	64	-	*オンライン開催

1.2.10 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第77回	2019年5月23日～24日	奄美市社会福祉センター	40	25	電子情報通信学会
第78回	2019年9月6日	サニ貸会議室	12	54	電子情報通信学会/電気学会
第79回	2019年11月20日～22日	大和平群/奈良先端科学技術大学院大学	29	24	
第80回	2020年3月9日	公立はこだて未来大学	12	-	*オンライン開催

1.2.11 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第62回	2019年6月6日～7日	東京ビッグサイト	14	46	
第63回	2019年8月26日～27日	豊橋技術科学大学	15	24	
第64回	2019年12月10日～11日	淡路夢舞台国際会議場	29	34	
第65回	2020年3月2日	名古屋大学IB電子情報館	57	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.12 インターネットと運用技術研究発表会

第45回	2019年5月23日～24日	大阪大学豊中キャンパス	20	72	電子情報通信学会
第46回	2019年6月14日	小樽商科大学	17	68	
第47回	2019年9月19日～20日	広島大学東千田キャンパス	18	66	
第48回	2020年3月2日～3日	名古屋大学東山キャンパス	30	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.13 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第33回	2019年5月9日～10日	東京農工大学小金井キャンパス	15	50	電子情報通信学会
第34回	2019年7月23日～24日	高知工科大学永国寺キャンパス	66	70	電子情報通信学会
第35回	2019年9月19日～20日	広島大学東千田キャンパス	18	6	
第36回	2020年3月3日	沖縄県青年会館	55	-	電子情報通信学会 *オンライン開催

1.2.14 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第25回	2019年5月30日～31日	岩手県立大学アイーナキャンパス	11	24	
第26回	2019年8月29日～30日	葉山港管理事務所	23	57	
第27回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	21	

1.2.15 デジタルコンテンツクリエーション研究発表会

第22回	2019年6月7日～8日	アイトビル浦島	6	12	
第23回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	28	
第24回	2020年1月23日～24日	隠岐島文化会館	42	22	

1.2.16 高齢社会デザイン研究発表会

第15回	2019年8月26日～27日	豊橋技術科学大学	15	16	
第16回	2019年12月6日	コト品川オフィス会議室	4	20	
第17回	2020年2月28日	京都工芸繊維大学	14	-	*開催中止

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第240回	2019年6月13日～14日	遠野市民センター	17	36	
第241回	2019年8月29日～30日	小樽商科大学	28	89	
第242回	2019年10月25日～26日	奈良先端科学技術大学院大学	8	28	
第241回	2019年12月4日～5日	NHK放送技術研究所	19	81	電子情報通信学会

1.3.2 知能システム研究発表会

第196回	2019年6月21日～22日	広島経済大学立町キャンパス	10	27	電子情報通信学会
第197回	2020年2月17日	沖縄県青年会館	13	6	
第198回	2020年3月7日～10日	ルツツゾートホテル	17	-	併催:人工知能学会/電子情報通信学会 *開催中止
第199回	2020年3月23日～24日	静岡大学浜松キャンパス	12	-	*オンライン開催

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第217回	2019年5月30日～31日	リソニック記念青少年総合センター	44	81	電子情報通信学会
第218回	2019年9月4日～5日	岡山大学津島キャンパス	26	108	電子情報通信学会
第219回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	39	
第220回	2020年1月23日～24日	奈良先端科学技術大学院大学	34	91	電子情報通信学会/パッチャリリティ学会
第221回	2020年3月16日～17日	京都大学	48	-	電子情報通信学会 *開催中止

1.3.4 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第174回	2019年6月27日	早稲田大学国際会議場	4	14	
第175回	2019年9月28日	東京大学本郷キャンパス	9	27	
第175回	2019年11月7日～8日	九州工業大学百周年中村記念館	24	27	
第176回	2020年3月17日～18日	東映デジタルセンター	17	-	*開催中止

1.3.5 コンピュータと教育研究発表会

第150回	2019年6月8日	北海道大学	9	38	
第151回	2019年10月5日～6日	岩手県立大学アイーナキャンパス	13	44	
第152回	2019年11月15日～17日	広島大学情報メディア教育研究センター	24	59	
第153回	2020年2月15日～16日	大阪教育大学天王寺キャンパス	24	90	
第154回	2020年3月14日	電気通信大学	23	-	*オンライン開催

1.3.6 人文科学とコンピュータ研究発表会

第120回	2019年5月11日	京都大学人文科学研究所	13	59	
第121回	2019年8月1日	慶應義塾大学日吉キャンパス	13	42	
第122回	2020年2月1日	佐賀大学	8	70	

1.3.7 音楽情報科学研究発表会

第123回	2019年6月22日～23日	京都大学	67	142	協賛：電子情報通信学会
第124回	2019年8月27日～28日	静岡文化芸術大学	15	55	
第125回	2019年11月19日	駒澤大学駒沢キャンパス	6	58	
第126回	2020年2月17日～18日	東京工業大学大岡山キャンパス	15	85	

1.3.8 音声言語情報処理研究発表会

第127回	2019年6月22日～23日	京都大学	67	119	協賛：電子情報通信学会
第128回	2019年7月19日～20日	風鈴屋	12	36	併催：電子情報通信学会
第129回	2019年10月11日	キャンパスラサール 京都	7	19	
第130回	2019年12月6日	NHK放送技術研究所	19	75	電子情報通信学会
第131回	2020年2月13日～14日	加賀・片山津温泉佳水郷	11	28	

1.3.9 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第84回	2019年6月3日～4日	KGU関内メディアセンター	21	75	電子情報通信学会
第85回	2019年9月19日～20日	石川県政記念しいのき迎賓館	23	31	
第86回	2019年11月22日	新潟大学駅南キャンパス	10	15	
第87回	2020年2月14日	佛教大学二条キャンパス	12	23	

1.3.10 ゲーム情報学研究発表会

第42回	2019年7月19日～20日	北海道大学札幌キャンパス	12	37	
第43回	2020年3月13日～14日	早稲田大学	28	-	*オンライン開催

1.3.11 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第52回	2019年6月10日～11日	東京大学山上会館	21	66	電子情報通信学会/日本パッチャリリティ学会/ ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第53回	2019年8月20日～21日	情報科学芸術大学院大学	2	13	
第54回	2019年12月13日	奈良先端科学技術大学院大学	11	31	
第55回	2020年3月18日～19日	首都大学東京日野キャンパス	27	-	*開催中止

1.3.12 バイオ情報学研究発表会

第58回	2019年6月17日～19日	沖縄科学技術大学院大学	62	71	電子情報通信学会
第59回	2019年9月8日	東京工業大学大岡山キャンパス	5	17	

第60回	2019年12月2日	博多駅南BMT貸会議室	7	15	
第61回	2020年3月12日	北陸先端科学技術大学院大学	13	29	併催：人工知能学会 *オンライン発表も併用

1.3.13 教育学習支援情報システム研究発表会

第28回	2019年6月1日	岩手県立大学アイーナキャンパス	5	113	
第29回	2019年11月15日～17日	広島大学情報メディア教育研究センター	24	55	
第30回	2020年3月8日～10日	神戸大学瀧川記念学術交流会館	24	-	*開催中止

1.3.14 アクセシビリティ研究発表会

第10回	2019年8月23日～24日	早稲田大学西早稲田キャンパス	16	58	
第11回	2019年12月13日～14日	早稲田大学西早稲田キャンパス	8	26	
第12回	2020年3月13日～15日	筑波技術大学	32	-	電子情報通信学会 *開催中止

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分 *インタラクシオン2020はコロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン開催）

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
The 3rd. cross-disciplinary Workshop on Computing Systems, Infrastructures, and Programming (xSIG 2019)	2019年5月27日～29日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	44	119
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOM2019) シンポジウム	2019年7月3日～5日	福島県磐梯熱海温泉 華の湯	272	400
第22回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2019)	2019年7月29日～8月1日	グランキューブ大阪	338	1053
情報教育シンポジウム2019 (SSS2019)	2019年8月17日～19日	大阪電気通信大学	53	146
DAシンポジウム2019 -システムとLSIの設計技術-	2019年8月28日～30日	山代温泉ゆのくに天祥	46	104
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2019 (SES2019)	2019年8月29日～31日	工学院大学 新宿キャンパス	74	188
組込みシステムシンポジウム2019 (ESS2019)	2019年9月5日～6日	下呂温泉水明館	34	87
第12回Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2019)	2019年9月8日～9日	工学院大学 新宿キャンパス	159	339
エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC2019)	2019年9月20日～22日	九州大学 大橋キャンパス	141	211
コンピュータセキュリティシンポジウム (CSS2019)	2019年10月21日～24日	ハウステンボス	223	805
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2019)	2019年11月1日～4日	Pattaya, Thailand	37	83
ゲームプログラミングワークショップ2019 (GPW2019)	2019年11月8日～10日	箱根セミナーハウス	43	83
第27回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2019)	2019年11月11日～13日	登別温泉登別万世閣	49	75
グループウェアとネットワークサービスワークショップ2019 (GNWS2019)	2019年11月14日～15日	伊豆大島ホテル白岩	24	31
ユーザブルセキュリティ・プライバシー (USP) 論文読破会3	2019年11月29日	化学会館	16	39
第12回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2019)	2019年12月5日～6日	沖縄産業支援センター	27	94
第31回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2019)	2019年12月10日～11日	大阪大学 吹田キャンパス	44	83
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2019)	2019年12月14日～15日	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	48	178
第9回災害コミュニケーションシンポジウム	2019年12月26日	キャンパスプラザ京都	11	57
高度交通システム研究フォーラム2020	2020年1月24日	慶應義塾大学 日吉キャンパス	14	80
ウインターワークショップ2020・イン・京都	2020年1月24日～25日	YIC京都工科自動車大学校	21	50
*インタラクシオン2020	2020年3月9日～11日	学術総合センター内 一橋講堂	243	593

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2019秋 -ジョーシン2019秋-	2019年10月26日	専修大学 神田キャンパス	8	97
-------------------------------------	-------------	--------------	---	----

3. 事業活動

3.1 全国大会 *コロナウィルス感染症の影響により現地開催中止（一部セッションをオンライン開催）

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第82回全国大会	2020年3月5日～7日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	1,141	3	2,419名 (参加券発行数)

3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

FIT2019 第18回情報科学技術フォーラム	2019年9月3日～5日	岡山大学 津島キャンパス	529	1	1,336
-------------------------	--------------	-----------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会（情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ）

3.3 連続セミナー2019：テーマ「データ駆動で新時代を切り拓く」

名称	開催年月	場所	演題数	本会場参加数	遠隔会場参加数
AIと歩む未来(1)：自然言語処理の最新動向	2019年6月26日	本会場：理化学研究所 革新知能統合研究センター 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	108	24
トラスト時代におけるセキュリティ技術	2019年7月30日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	71	9
AIと歩む未来(2)：画像・映像処理の最前線	2019年9月26日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	84	31
エッジコンピューティングの課題と未来	2019年10月25日	本会場：日本大学 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	95	32
シミュレーションと人工知能	2019年11月15日	本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	5	81	16
IT分野の研究開発動向を俯瞰する	2019年12月9日	本会場：国立研究開発法人科学技術振興機構 東京本部別館 遠隔会場：大阪大学 中之島センター 遠隔会場：東北大学	9	68	24

※全体スポンサー：ヤフー株式会社

※ドリンクスポンサー：ヤフー株式会社、日本電気株式会社、株式会社日立製作所

※協賛：照明学会、映像情報メディア学会、電気学会、情報サービス産業協会、電子情報通信学会、電子情報技術産業協会、人工知能学会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、情報通信技術委員会、インターネット協会、新世代M2Mコンソーシアム

※後援：特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会、国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
量子コンピュータ&量子通信の最新動向と展望	2019年4月11日	一般社団法人情報通信技術委員会 2階AB会議室	6	71	※1,2

※1) 主催：情報処理学会、情報通信技術委員会

※2) 協賛：照明学会、電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会

AI×IoTの社会実装と標準化における課題と取り組み	2019年10月9日	産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館 11F会議室	6	85	※1
----------------------------	------------	-------------------------------	---	----	----

※1) 協賛：人工知能学会、産業技術総合研究所、電気学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本技術士会、照明学会

Society5.0に向けたデータ流通	2019年12月3日	日本教育会館 8F第二会議室	5	65	※1,2
---------------------	------------	----------------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、データ流通推進協議会

※2) 協賛：電気学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、照明学会、情報通信技術委員会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、情報サービス産業協会

JPEG/MPEG標準化の最新動向2019 ～2020年に向けた活動状況～	2019年12月13日	機械振興会館6階66会議室	11	41	※1
---------------------------------------	-------------	---------------	----	----	----

※1) 協賛：電気学会、照明学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、電子情報技術産業協会、ビジネス機械・情報システム産業協会、日本技術士会、IEEE東京支部

Exciting Coding!Junior 2019@tokyo	2019年12月21日	青山学院アスタジオ 地下1階 講義室	---	10組20名	
-----------------------------------	-------------	--------------------	-----	--------	--

事例と共に紹介するプロセスアセスメントの有効活用	2020年1月10日	機械振興会館 地下3階 研修1号室	8	28	※1,2
--------------------------	------------	-------------------	---	----	------

※1) 後援：日本SPICEネットワーク、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

※2) 協賛：電気学会、照明学会、電子情報通信学会、情報サービス産業協会、日本規格協会、映像情報メディア学会、日本技術士会

ここまで来た!空間表現の先端事例と技術動向 ～CG/CV/VR/HCIの最先端～	2020年2月4日	(株)フォーラムエイト セミナールーム	5	48	※1,2
---	-----------	---------------------	---	----	------

※1) 主催：情報処理学会、最先端表現技術利用推進協会

※2) 協賛：照明学会、電子情報通信学会、電気学会、映像情報メディア学会

Exciting Coding!Junior 2019@Kanazawa	2020年3月7日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	---		※1
--------------------------------------	-----------	-----------------	-----	--	----

※1) コロナウイルス感染症の影響により開催中止

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2019	2019年9月6日～8日	かんぼの宿 伊豆高原	8	24
第52回情報科学若手の会	2019年10月12日～14日	軽井沢研修所	台風19号により中止	
第61回プログラミング・シンポジウム	2020年1月10日～12日	ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭	15	68

3.6 IPSJ International AI Programming Contest

*コロナウイルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン審査）

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2018-19 (Final Round)	2020年3月6日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス	16	24	※

※) 協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、情報科学国際交流財団、IEEE Computer Society、IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter、IEEE Japan Office、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers、China Computer Federation
 後援：文部科学省、総務省、経済産業省、情報処理推進機構
 ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所、野村ホールディングス
 サポーター：日本レジストリサービス、富士通、ナレッジクリエーションテクノロジー

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（4件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
コンタクトセンター	河合 洋
CITP	平林元明
勉強会	河口信夫

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2020	2020年2月7日	一橋大学一橋講堂会議室 ・学術総合センターNII		184	※1.2

※1) スポンサー：6口

※2) ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC））を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部 *一部講演会 コロナウイルス感染症の影響により延期

・情報処理北海道シンポジウム2019（10月5日、北海道大学） 演題数62件、参加者数108名

5.2 東北支部 *一部研究会 コロナウイルス感染症の影響により現地開催中止（オンライン開催）

・電気関係学会東北支部連合大会（8月22日～23日、秋田大学） 演題数289件、参加者482名

・支部研究会 7回（11月28-29日、12月6日、12月21日、'20年2月8日、2月9日、2月20日、*3月10日）

・支部講演会 4回（6月19日、10月24日、12月16日、'20年1月28日）

5.3 東海支部

・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月9日-10日、大同大学） 演題数460件、参加者数 889名

・講演会 6回（5月20日、7月18日、9月10日、11月25日、12月5日、'20年1月16日）

・研究会 10回（協賛等）

・学生研究発表助成 1件

5.4 北陸支部

・特別講演会 1回（5月10日）

・研究講演会 2回（'20年1月16日、1月30日）

・電気関係学会北陸支部連合大会（8月31-9月1日、石川工業高等専門学校） 演題数195件、参加者数352名

・北陸地区学生による研究発表会（'19年3月2日、富山高専）

5.5 関西支部

・関西支部支部大会（9月23日、大阪大学中之島センター）

・支部研究会：ネットワークサービス研究会（9月23日）、

グリーン組込みコンピューティング研究会（9月23日）、

社会と環境のエージェント知能研究会（9月23日）、

プログラミング・情報教育研究会（9月23日）、

行動変容と社会システム研究会（9月23日）、

・支部セミナー 3回（7月28日、6月9日、11月1日、8日）

・講演会 1回（11月18日）

・連続セミナー2019（遠隔会場） 6回（6月26日、7月30日、9月26日、10月25日、11月15日、12月9日）

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月26日、鳥取大学） 演題数188件、参加者数360名
- ・講演会 10回（5月31日、6月13日、7月30日、8月2日、9月20日、10月23日、11月8日、'20年2月5日、2月7日、3月26日
- ・講習会 3回（9月19日、11月22日、12月6日）

5.7 四国支部 *一部のイベント コロナウイルス感染症の影響により中止・延期

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月21日、新居浜工業高等専門学校） 参加者数340名
- ・共催事業 4回（10月19日、10月19日、'20年2月29日、2月28-29日）
- ・講演会 4回（5月15日、7月18日、12月16日、'20年1月7日）

5.8 九州支部 *火の国情報シンポジウム コロナウイルス感染症の影響により開催中止

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月27-28日、九州工業大学） 聴講者数766名
- ・若手の会セミナー（12月6-7日、国民宿舎 虹ノ松原ホテル） 参加者数19名
- ・*火の国情報シンポジウム（'20年3月9-10日、九州工業大学） *開催中止
- ・講演会等 2回（10月5日、11月29日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2019年4月15日	60	5	オープンサイエンスの動向と情報科学の役割	24	99	6
2019年5月15日	60	6	フレッシュマンに向けたプログラミングのススメ	26	96	6
2019年6月15日	60	7	未来の学びを主導する高専教育	27	120	6
2019年7月15日	60	8	グローバルに活躍する／ワークライフバランス	46	115	6
2019年8月15日	60	9	集めよ！ジュニア会員！！	72	123	6
2019年9月15日	60	10	ソーシャル・マジョリティ研究／セキュリティ人材育成の現状と実践	32	123	6
2019年10月15日	60	11	デジタルタイプ—文字情報処理基盤の今とこれから—	19	99	6
2019年11月15日	60	12	「京」の後の時代を支えるスパコン	21	125	4
2019年12月15日	61	1	『AIの遺電子』に学ぶ未来構想術	29	133	4
2020年1月15日	61	2	ブロックチェーン技術の最新動向	17	89	6
2020年2月15日	61	3	5G時代の幕開けに向けた研究開発と実証	20	101	4
2020年3月15日	61	4	新たなモビリティ時代のサイバーセキュリティ	23	101	4

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2019年4月15日	60	4	ソフトウェア工学	17	1	176
2019年5月15日	60	5	情報システム論文	5	0	28
2019年6月15日	60	6	---	2	0	19
2019年7月15日	60	7	---	9	0	90
2019年8月15日	60	8	組込みシステム工学	9	0	89
2019年9月15日	60	9	デジタルトランスフォーメーションを加速するコンピュータセキュリティ	30	0	168
2019年10月15日	60	10	ユビキタスコンピューティングシステム(VIII)/エージェント理論・技術	28	0	347
2019年11月15日	60	11	エンタテインメントコンピューティング	15	4	152
2019年12月15日	60	12	ユーザブルセキュリティ	24	1	237
2020年1月15日	61	1	オープンイノベーションを加速するコラボレーション技術とネットワークサービス/生き生きとしたスマートシティを実現する高度交通システムとパーベイシブシステム	20	0	133
2020年2月15日	61	2	人文科学とコンピュータ/インタラクションの理解および基盤・応用技術/ネットワークサービスと分散処理/組込みシステム工学	41	1	386
2020年3月15日	61	3	若手研究者/IoT活用のためのインターネットと運用技術	27	1	236

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(年刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2019年4月15日	27	—	トランザクション連携論文：0	2	1	24
2019年5月15日	27	—	トランザクション連携論文：2	5	0	52
2019年6月15日	27	—	トランザクション連携論文：3	3	0	34
2019年7月15日	27	—	トランザクション連携論文：1	2	0	24
2019年8月15日	27	—	トランザクション連携論文：3	4	0	38
2019年9月15日	27	—	トランザクション連携論文：0 Special Issue of Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC 2018	15	0	151
2019年10月15日	27	—	トランザクション連携論文：2	2	0	24
2019年11月15日	27	—	トランザクション連携論文：4	8	0	80
2019年12月15日	27	—	トランザクション連携論文：4	8	0	90
2020年1月15日	28	—	トランザクション連携論文：0	7	0	85
2020年2月15日	28	—	トランザクション連携論文：2	9	1	106
2020年3月15日	28	—	トランザクション連携論文：0	6	0	55

4. 「情報処理学会論文誌(トランザクション)」(不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2019年5月21日	12	2	プログラミング	4	21
2019年7月17日	12	3	プログラミング	3	19
2019年9月18日	12	4	プログラミング	1	7
2019年11月20日	12	5	プログラミング	1	6
2020年1月29日	13	1	プログラミング	2	24
2019年7月17日	12	2	数理モデル化と応用	9	100
2019年12月23日	12	3	数理モデル化と応用	9	88
2020年3月25日	13	1	数理モデル化と応用	3	37
2019年4月11日	12	2	データベース	3	11
2019年7月17日	12	3	データベース	2	17
2019年10月23日	12	4	データベース	10	79
2020年1月27日	13	1	データベース	5	44
2019年7月29日	12	3	コンピューティングシステム	6	86
2019年11月28日	12	4	コンピューティングシステム	3	0
2020年2月12日	13	1	コンピューティングシステム	1	27
2019年5月24日	9	2	コンシューマ・デバイス&システム	4	46
2019年9月27日	9	3	コンシューマ・デバイス&システム	3	19
2020年2月26日	10	1	コンシューマ・デバイス&システム	5	57
2019年8月27日	7	2	デジタルコンテンツ	1	14
2020年2月26日	8	1	デジタルコンテンツ	4	39
2019年6月28日	5	2	教育とコンピュータ	5	39
2019年10月11日	5	3	教育とコンピュータ	6	57
2020年2月21日	6	1	教育とコンピュータ	5	68
2019年5月27日	12	-	Bioinformatics	1	4
2019年7月31日	12	-	Bioinformatics	1	9
2020年1月8日	13	-	Bioinformatics	1	6
2020年3月27日	13	-	Bioinformatics	1	9
2019年8月1日	12	-	System LSI Design Methodology	4	28
2020年2月28日	13	-	System LSI Design Methodology	6	40

2019年5月10日	11	-	Computer Vision and Applications	1	22
2019年6月4日	11	-	Computer Vision and Applications	1	7
2019年6月10日	11	-	Computer Vision and Applications	1	10
2019年6月25日	11	-	Computer Vision and Applications	1	9
2019年7月17日	11	-	Computer Vision and Applications	1	14
2019年7月24日	11	-	Computer Vision and Applications	1	13
2019年11月4日	11	-	Computer Vision and Applications	1	6
2019年11月20日	11	-	Computer Vision and Applications	1	18
2019年11月29日	11	-	Computer Vision and Applications	1	17

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)

				その他参考	
発行年月日	巻	号	特集テーマ	論文数	本文頁数
2019年4月15日	10	2	ディープラーニングのプラクティス	9	152
2019年7月15日	10	3	フィンテック/ブロックチェーン	15	246
2019年10月15日	10	4	働き方改革とIT	9	166
2020年1月15日	11	1	DX時代のスキル標準と人材育成	11	224

6. その他出版(重版)

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2019年5月20日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング(1版13刷)	101	270
2019年5月20日	IT textシリーズ ソフトウェア開発(改訂2版)(2版5刷)	500	224
2019年5月20日	IT textシリーズ 画像工学(1版2刷)	300	232
2019年5月25日	IT textシリーズ 情報リテラシー(1版3刷)	100	248
2019年5月25日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報と社会(1版11刷)	100	236
2019年5月25日	IT textシリーズ 情報セキュリティ(1版16刷)	500	288
2019年5月25日	IT textシリーズ データベースの基礎(1版1刷)	2000	273
2019年5月25日	IT textシリーズ 離散数学(1版5刷)	400	240
2019年5月30日	IT textシリーズ 人工知能(改訂2版)(2版4刷)	700	244
2019年6月30日	IT textシリーズ 数理最適化(1版3刷)	70	272
2019年7月30日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン(1版15刷)	400	212
2019年8月30日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版2刷)	400	206
2019年10月10日	IT textシリーズ Java基本プログラミング(1版6刷)	300	234
2019年9月10日	IT textシリーズ アルゴリズム論(1版17刷)	700	230
2019年11月1日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ(改訂2版)(2版1刷)	1500	232
2019年10月30日	IT Textシリーズ データマイニングの基礎(1版9刷)	100	286
2019年11月30日	IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション(改訂2版)(2版5刷)	1200	260
2019年12月10日	IT textシリーズ ソフトウェア開発(改訂2版)(2版6刷)	600	224
2019年11月20日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ(1版3刷)	700	206
2020年1月30日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報システム基礎(1版12刷)	300	218
2020年1月30日	IT textシリーズ 情報と職業(改訂2版)(2版5刷)	800	232
2020年1月30日	IT textシリーズ オペレーティングシステム(改訂2版)(2版3刷)	900	260
2020年1月30日	IT textシリーズ 基礎Web技術(改訂2版)(2版3刷)	300	188
2020年1月30日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とネットワーク社会(1版6刷)	500	192
2020年2月20日	IT textシリーズ ソフトウェア工学演習(1版14刷)	150	228
2020年2月25日	IT textシリーズ 応用Web技術(改訂2版)(2版2刷)	300	210
2020年2月25日	IT textシリーズ 情報通信ネットワーク(1版2刷)	259	274

付4. 国際会議一覧

※以下は、2019年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 13th International Workshop on Security (IWSEC2018)	2018年9月3日-5日	日本（宮城）	94名	10名	---
25th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2018)	2018年12月4日-7日	日本（奈良）	253名	129名	
24th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2019)	2019年1月21日-24日	日本（東京）	346名	238名	・ IEEE CAS ・ IEEE CEDA ・ ACM SIGDA

付5. 表彰等 *いずれも所属（ ）内は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（3名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [理事会（2020年1月）]

・西尾章治郎（阪大） ・土井美和子（NICT/奈良先端大/東北大） ・Zide Du（China Computer Federation）

2. 功績賞（3名）・顕功賞：該当なし [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [功績賞選定委員会（2020年3月）]

・富田悦次（電通大） ・松本裕治（理化学研） ・笠原博徳（早大）

3. 新フェロー（16名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [フェロー選定委員会（2020年2月）]

・浦本直彦（三菱ケミカルホールディングス） 「非構造・半構造情報処理とデータ・クラウドセキュリティの研究開発への貢献」
・栄藤 稔（阪大） 「動画画像国際標準化および大規模データ処理技術の実用化に対する貢献」
・大場みち子（はこだて未来大） 「先駆的ICT人材育成および知的活動の思考プロセスの測定と分析に関する研究」
・川越恭二（立命館大） 「時間データベースに関する先駆的研究」
・小林直樹（東大） 「高階モデル検査に関する研究およびIFIPに対する貢献」
・斎藤隆文（農工大） 「CGIにおける非写実的表現等の先駆的研究」
・白田由香利（学習院大） 「データ工学と数理科学を中心とした教育への貢献」
・土田正士（首都大） 「高スケーラブルデータベース統合基盤の研究開発と標準化に対する貢献」
・鳥居 悟（富士通研） 「組織の情報セキュリティインシデント対処技術の研究開発に対する貢献」
・橋本隆子（千葉商科大） 「国際的な女性技術者支援活動への貢献」
・長谷川輝之（KDDI） 「広域データ通信の品質向上手法の発明ならびに実用化」
・富士 仁（NTT） 「セキュアなデータ利活用技術の研究開発」
・前田 章（JST） 「画像処理および社会基盤システム技術の研究開発と学会運営への貢献」
・森嶋厚行（筑波大） 「データ統合と群衆データベースシステム研究開発および学会運営への貢献」
・森島繁生（早大） 「人物顔画像分析及びアニメーション合成の研究と実用化に対する貢献」
・暦本純一（東大） 「ヒューマンコンピュータインタラクション研究領域に対する貢献」

4. 論文賞（6件21名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [論文賞選定委員会（2020年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

・PR-SCTPを用いた分割ダウンロード方式における所要時間とブロック到達順序を考慮した要求方式
武田和也、舟阪淳一（広島市立大）
・ジャミング転移による硬さおよび形状の提示が可能な食感提示システムの提案
笹川真奈、新島有信、青木良輔、渡部智樹、山田智広（NTT）
・敵対的生成ネットワークを用いた3次元点群形状特徴量の教師なし学習
上西和樹、古屋貴彦、大淵竜太郎（山梨大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・Chosen Message Attack on Multivariate Signature ELSA at Asiacrypt 2017
Yasufumi Hashimoto（琉球大）、Yasuhiko Ikematsu、Tsuyoshi Takagi（東大）

(3) 情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム 優秀論文賞

・ノンストップ顔認証システムによる大規模イベントのチケット本人確認の性能改善
奥村明俊、星野隆道、半田 享、西山雄吾、田淵仁浩（NECソリューションイノベータ）

(4) IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award

・Effective hyperparameter optimization using Nelder-Mead method in deep learning
Yoshihiko Ozaki、Masaki Yano、Masaki Onishi（産総研）

5. 業績賞（3件12名、*：代表貢献者） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [業績賞選定委員会（2020年3月）]

・「世界トップクラスの性能を実現したオープンな高次元ベクトル近傍検索の開発」
*岩崎雅二郎、宮崎大輔、加藤優介、森本浩介、菅原晃平（ヤフー）

- ・「低被ばく化×線透視診断装置向け映像処理技術の研究開発と実用化」

*荻野昌宏、高野橋健太、鈴木克己（日立）

- ・「防災や交通渋滞等の社会課題解決に寄与する「リアルタイム人口統計」の開発実用化」

*寺田雅之、赤塚裕人、深澤佑介、石黒 慎（NTTドコモ）

6. 情報処理技術研究開発賞（1名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [情報処理技術研究開発賞選定委員会（2020年1月）]

- ・ 関 晃仁（東芝） 「カメラ画像を用いた周辺環境認識技術の研究開発」

7. マイクロソフト情報学研究賞（2名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止・第82回大会現地開催中止により] [マイクロソフト情報学研究賞選定委員会（2020年1月）]

- ・ 大浦圭一郎（名工大） 「統計的歌声合成技術の研究開発」
- ・ 大越 匡（慶大） 「ユーザの情報受容性を向上させる情報提示タイミングに関する研究」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research（1名）

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止・第82回大会現地開催中止により] *2020年6月 ACM Award Banquet招待 [IPSJ/ACM審査会（2020年2月）]

- ・ 矢谷浩司（東大） 「Mobile Interactive Systems for Intellectual Productivity Support」

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award（3名）

[IEEE COMPSAC2020（2020年7月）表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）発表中止・第82回大会現地開催中止] [IPSJ/IEEE-CS審査会（2020年2月）]

- ・ 石川冬樹（NII） 「Research on Intelligence-driven Engineering of Dependable Smart Systems」
- ・ 塩谷亮太（東大） 「Outstanding Achievements on Microprocessor Architecture」
- ・ 村尾和哉（立命館大） 「Outstanding Research on Human Activity Recognition for Wearable Computing」

10. 山下記念研究賞（57編）

[賞状等発送をもって表彰 *第82回全国大会現地開催中止により] [各領域委員会（2019年7月）]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・ Compressed Vector Set: A Fast and Space-Efficient Data Mining Framework [DBS] 小山田昌史（NEC）
- ・ Apache DrillとFPGAアクセラレータを統合するシステムアーキテクチャの提案 [DBS] 渡辺 聡（日立製作所）
- ・ 企業のソフトウェア開発に対する自動プログラム修正技術適用の試み [SE] 内藤圭吾（NTTデータ）
- ・ ITシステム開発における類似プロジェクト検索技術の開発 [SE] 山本智基（NTTデータ）
- ・ ルーティングアルゴリズムによる通信帯域の測定と理解 [ARC] 河野隆太（慶大）
- ・ 1Tbps 実現に向けたルータのメモリ階層の最適化 [ARC] 田中京介（電通大）
- ・ 追記型インターフェイスによるSSDのテイルレイテンシ改善 [OS] 田所秀和（東芝メモリ）
- ・ FDSOIプロセスにおけるスタック構造のソフトエラー耐性を高める対策手法の提案 およびデバイスシミュレーションを用いた評価 [SLDM] 山田晃大（トヨタ自動車）
- ・ 最大充足化問題を用いた抵抗性オープン故障に対するテスト生成法 [SLDM] 山崎紘史（日大）
- ・ Volta世代のGPUにおける重力ツリーコードの性能評価 [HPC] 三木洋平（東大）
- ・ 小疎行列積計算のGPU最適化 [HPC] 長坂侑亮（富士通研）
- ・ Dual-context Modal Logic as Left Adjoint of Fitch-style Modal Logic [PRO] 角谷良彦（マインド・アーキテクト）
- ・ On the Multi-Service Center Problem [AL] 伊藤健洋（東北大）
- ・ 厳しい評価回数制限下における多変数問題に対するアプローチの提案 [MPS] 開発拓也（ソフトクリエイティブホールディングス）
- ・ A motion planning method for mobile robot considering rotational motion in area coverage task [EMB] 矢野泰生（京大）

<情報環境領域>

- ・ SmartFinder: 集約型自己組織化スマートデバイス位置推定方式のノード間メトリックを用いた拡張とその実装 [DPS] 北之馬貴正（Phindex Technologies）
- ・ 分散エッジ環境における機械学習実現最適化の検討～エッジ上で動作するアルゴリズム・オントロジーの決定と転移学習適用による最適化検討～ [DPS] 森 郁海（三菱電機）
- ・ 抵抗膜方式の多重座標計測による布製タッチセンサの提案 [HCI] 青木靖太（関西大）
- ・ BBEEP: 歩行者との衝突予測に基づく警告音を用いた視覚障害者のための衝突回避支援システム [HCI] 粥川青汰（早大）

- ・広域観光支援システムへのデザイン思考アプローチ適用の試み [IS] 上田翔磨 (富士通マーケティング)
- ・Real-time free viewpoint rendering via view-dependent polygon plane arrangement [AVM] 野中敬介 (KDDI総研)
- ・複数対話型エージェントの役割分担によるユーモア生成システムの基礎検討 [GN] 中原涼太 (富士ソフト)
- ・講演者および聴講者の双方を支援するためのVR講演システムの開発 [GN] 森本麻代 (NEC)
- ・読み手意識 (Audience Awareness) 尺度に基づく「わかりやすい説明文章」の背景要因の検討 [DC] 辻 義人 (はこだて未来大)
- ・SOXFire: XMPPに基づく都市センサ情報流通基盤 [MBL] 米澤拓郎 (名大)
- ・スマートフォンによる歩行者と車両の交通状況理解システムの設計と評価 [MBL] 秋川亮太 (阪大)
- ・超音波の分離放射による音声認識機器への攻撃: ユーザスタディ評価と対策技術の提案 [CSEC] 飯島 涼 (早大)
- ・実世界でも攻撃可能なAudio Adversarial Example [CSEC] 矢倉大夢 (筑波大)
- ・車両からの電波の長期計測による路側機の高精度測位方式の提案 [ITS] 戸田和宏 (野村総研)
- ・飲料のアルコール濃度計測を行うスマートアイスクューブの試作と評価 [UBI] 松井秀憲 (東大)
- ・Wi-Fiチャンネル状態情報を用いた教師無し学習によるドアの開閉検知手法 [UBI] 尾原和也 (NTT)
- ・DNSシンクホールとハニーポットを用いた不正FQDNに対する通信観測システムの開発 [IOT] 佐保航輝 (大分大)
- ・九州大学における要機密情報の保護方法に関する一考察 [IOT] 嶋吉隆夫 (九大)
- ・覗き見耐性を持つマウス操作と数字盤を組み合わせた個人認証方式の提案と評価 [SPT] 坂本憲理 (NTTテクノクロス)
- ・公共施設における動的案内サインを用いた人流誘導システムの評価 [CDS] 市川裕介 (NTT)
- ・両面透過型多層空中像表示技術の提案と実装 [DCC] 巻口誉宗 (NTT/北大)
- ・認知症フレンドリーな社会デザインのためのマルチステークホルダープラットフォームプロセス [ASD] 岡田 誠 (DFJ1)

<メディア知能情報領域>

- ・A proposal for a unified corpus of the Ainu language [NL] NowakowskiKarolPiotr (北見工大)
- ・競輪予想記事の自動配信に向けた的中車券予測 [IGS] 吉田拓海 (北大)
- ・Linking videos and languages: Representations and Their Applications [CVIM] 大谷まゆ (サイバーエージェント)
- ・色と動き情報の学習による静止画像からのシネマグラフ生成 [CVIM] 遠藤結城 (豊橋技科大)
- ・人物の単視点全身画像の再照明 [CG] 金森由博 (筑波大)
- ・仮想ネットワーク構築ライブラリ VITOCHA とネットワーク技術者教育 [CE] 鈴木常彦 (中京大)
- ・初等・中等教育における体系的なプログラミング教育のための評価規準に関する試案 [CE] 大森康正 (上越教育大)
- ・加点情報の再構成 [CH] 高田智和 (国語研)
- ・End-to-End Pre-Modern Japanese Character (Kuzushiji) Spotting with Deep Learning [CH] TarinCianuwat (ROIS-DS/NII)
- ・GPRに基づくメロディセグメンテーションによるフレーズの分散表現の獲得 [MUS] 平井辰典 (駒澤大)
- ・階乗隠れセミマルコフモデルに基づく音楽音響信号に対するカバー譜生成 [MUS] 柴田健太郎 (京大)
- ・von Mises分布DNNに基づく振幅スペクトログラムからの位相復元 [SLP] 高道慎之介 (東大)
- ・非線形ひずみ除去のための敵対的denoising autoencoder [SLP] 俵 直弘 (NTT)
- ・情報社会における倫理審査と倫理審査委員会3000個問題 [EIP] 吉見憲二 (佛教大)
- ・協力ゲームHanabiにおける相手の思考時間を戦略の指標に加えたエージェントの開発と評価 [GI] 佐藤栄介 (筑波大)
- ・誇張した咀嚼運動の映像提示による食感知覚操作に関する基礎検討 [EC] 鈴木佑司 (東大)
- ・偶然の遊びにおける主観的確率とエンタテインメント性との関係の調査 [EC] 水口 充 (京産大)
- ・libRCGA: 動力学モデルの高速なパラメータ推定のための遺伝的アルゴリズムライブラリ [BIO] 前田和勲 (九工大)
- ・Notebookによる講義・演習環境の開発 [CLE] 長久 勝 (ライフマティクス/NII)
- ・視覚障害者の移動特性を考慮した位置推定手法 [AAC] 山本晃平 (NUS)

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

[賞状等発送をもって表彰 *第82回全国大会現地開催中止により] [第81回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2019年6月)]

(1) 大会優秀賞 (10名)

- ・小高充弘 (長崎大/NII)
- ・加藤綾子 (文教大)
- ・小林聖哉 (会津大)
- ・駒宮 亘 (電通大)
- ・近藤拓弥 (中京大)
- ・坂本一仁 (セコム)
- ・佐藤悠祐 (工学院大)
- ・田中滉己 (京大)
- ・本多佑希 (大阪電通大)
- ・渡邊 優 (電機大)

(2) 大会奨励賞 (6名)

- ・風間健太郎 (農工大)
- ・木村信裕 (名城大)
- ・濱政 光 (阪大)
- ・山田泰基 (東工大)
- ・山本洋太 (千葉大)
- ・山本 玲 (中京大)

(1) 優秀教材賞（1件）

- ・ 上田 浩（法政大） 「倫倫姫と学ぼう！情報倫理：多言語情報倫理・セキュリティ教育オンラインコース」

13. 若手奨励賞（15件）

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会（2019年4月～2020年3月）]

<第25回スーパーコンピューティングコンテスト（2019年8月）>

- ・ aTKoder 行方 光一、大佐 健人、行方 聖（筑波大学附属駒場高等学校）

<第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）課題部門>

- ・ : : : d o c - 自動点字相互翻訳システム - 板橋竜太、鈴木惣一郎、藤巻晴葵、鴨下陽一、門脇斎斗（東京工業高等専門学校）

<第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）自由部門>

- ・ G u l l i v e r B l o c k s - VRで新しい創造体験を - 田村雄登、大野公平、橋田 陽、栗田桃花、藤川興昌（東京工業高等専門学校）

<第30回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（2019年10月）競技部門>

- ・ 独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校 柴田紘希、岡田 航、山口翔太、山下晃弘（東京工業高等専門学校）

<ETロボコン2019 プログラミング部門（2019年11月）>

- ・ K A M O G A W A 小西康介、内田賀子、神原太朗、杉江青葉、竹歳留加、後藤聡文（京都府立京都高等技術専門学校）

<パソコン甲子園2019 プログラミング部門（2019年11月）>

- ・ KMB86 行方光一、米田優峻（筑波大学附属駒場高等学校）
- ・ 魔法少女ぶつりよな▽ 井上誠大、平木康傑（灘高等学校）
- ・ eelTree 行方 聖、米山瑛士（筑波大学附属駒場高等学校）

<パソコン甲子園2019 モバイル部門（2019年11月）>

- ・ シリコン谷の仲間たち 中根睦仁、古田怜音、豊田真吾（鈴鹿工業高等専門学校）

<第19回日本情報オリンピック（2020年3月）>

- ・ 松尾 凜太郎（麻布学園麻布高等学校） ・ 平木 康傑（灘高等学校） ・ 米田 寛峻（開成高等学校）

<中高生情報学研究コンテスト（2020年3月）>

- ・ ykyuki.net 窪田靖之（川北町立川北中学校）
- ・ 中央大学附属高等学校A 小川瑞貴（中央大学附属高等学校）
- ・ π&cone ニノ方理仁（芝中学校）

14. 学会活動貢献賞／感謝状

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止により] [総務財務運営委員会（2020年1月）]

(1) 学会活動貢献賞：「学会誌における編集業務への貢献」（1名）

- ・ 金子 格（名古屋市立大）

(2) 学会活動貢献賞：「論文誌への査読貢献」（3名）

- ・ 寺西 裕一（NICT） ・ 由井蘭隆也（北陸先端大） ・ 寺田 努（神戸大）

(3) 学会活動貢献賞：「デジタルプラクティスへの査読貢献」（1名）

- ・ 掛下哲郎（佐賀大）

(4) 学会活動貢献賞：「FIT2019第18回情報科学技術フォーラム開催への貢献」（1名）

- ・ 谷口秀夫（岡山大）

(5) 学会活動貢献賞：「第81回全国大会開催への貢献」（1名）

- ・ 吉村賢治（福岡大）

(6) 感謝状：「プログラミングコンテストSamurai Codingへの貢献」（1名）

- ・ 大塚信吾（フィックスターズ）

<北海道>

- (1) 研究奨励賞 (5名) ・柿澤宏昭 ・菅原 優 ・新 恭兵 ・田中寿弥 ・森澤勝明
- (2) 学術研究賞 (2件) ・佐藤拓斗、渡邊拓貴、橋爪宏達、杉本雅則 ・鳥谷部直弥、古谷勇、喜田拓也
- (3) 技術研究賞 (2件) ・小澤怜、市橋克哉、前原洋祐、塩谷浩之、郷原一寿 ・DaniloGuimarGoncalves、廣瀬善大、今井英
- (4) ポスター賞 (3名) ・織田智矢 ・田澤 輝 ・深井美沙
- (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・神原早紀 ・鳥木瑛司 ・佐々木律

<東北>

- (1) 学生奨励賞 (14名) ・藤田卓磨 ・森 元遼 ・赤堀立樹 ・諏訪光輔 ・伊藤拓哉 ・伊藤雄謙 ・伊藤 樹
・北山晃太郎 ・榊田琢杜 ・高橋 竣 ・鈴木真生 ・寺田拳汰 ・伊藤 真 ・立花隼一
- (2) 奨励賞 (5名) ・河合洋弥 ・千葉智貴 ・舩沢 亘 ・鈴木拓也 ・渡邊 亮
- (3) 野口研究奨励賞 (1名) ・鈴木 顕

<東海>

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (5名)
・生駒流季 ・坂尾真也 ・橋川直樹 ・程田凌羽 ・松岡弘貴
- (2) 学生論文奨励賞 (6名)
・岩田紗希 ・五十嵐響 ・鴨下友馬 ・福井 宏 ・内田脩斗 ・田中久順

<北陸>

- (1) 優秀論文発表賞 (6名) ・小林 慧 ・秋山貴明 ・有田元気 ・上野友裕 ・飯森 亮 ・上原祐介
- (2) 優秀学生表彰 (11名) ・澤田知貴 ・堀川健斗 ・兵田憲信 ・大塚達史 ・藤井翔也 ・茶谷卓実
・阿知良澤 ・森吉優衣 ・上坂拓実 ・高林祐実 ・舟根あいか

<関西>

- (1) 学生奨励賞 (7名) ・河島健司 ・堤野理貴 ・伊藤 稔 ・石井幹大 ・岸本和理 ・高木一宏 ・武内俊樹

<中国>

- (1) 優秀論文発表賞 (5名) ・松山摩偉児 ・牧田岳大 ・桂木章吾 ・中田有哉 ・原田慎太郎
- (2) 奨励賞 (2名) ・小林周太郎 ・原 武志

<四国>

- (1) 学生奨励賞

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 (5名) ・齊藤 燎 ・川原祐樹 ・薛 冰宇 ・濱田浩輝 ・安倍彩香
- (2) 奨励賞-火の国シボ (5名) ・鈴木积規 ・寺嶋友哉 ・堀 将太 ・北山耕平 ・三島直也
- (3) 奨励賞-若手の会 (1名) ・猪股能成

16. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[賞状等発送をもって認定 *2020年度定時総会 (2020年6月) 認定中止・第82回大会現地開催中止により] [歴史特別委員会 (2019年11月)]

- (1) 情報処理技術遺産 (5件) ※ () 内は製造者、製造年
 - ・NECスーパーコンピュータSX-2 パッケージ (日本電気、1985年)
 - ・FACOM VPシリーズEモデルのMCCボード (富士通、1987年)
 - ・HITAC S-820 (日立、1987年)
 - ・地球シミュレータ (宇宙開発事業団・日本原子力研究所・海洋科学技術センター・日本電気、2002年運用開始)
 - ・スーパーコンピュータ「京」 (理化学研究所・富士通、2012年～2019年)
- (2) 分散コンピュータ博物館 (1件)
 - ・富士通DNA館

17. デジタルプラクティス論文賞 (1件5名)

[賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会 (2020年6月) 表彰中止・第82回大会現地開催中止により] [デジタルプラクティス編集委員会 (2019年11月)]

- ・深層学習によるコンクリート護岸劣化領域検出システムの開発
齋藤彰儀、上総虎智、平木悠太 (ブレインパッド)、天方匡純、吉田武司 (八千代エンジニアリング)

18. ソフトウェアジャパンアワード（1名） [賞状等発送をもって表彰 *2020年度定時総会（2020年6月）表彰中止] [技術応用運営委員会（2020年3月）]

- ・オープンソース脆弱性スキャナ「Vuls」の開発 神戸 康多（フューチャー）

19. FIT関連の各賞

- (1) FIT2019船井業績賞（1名）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2019(2019年9月)表彰] [FIT船井業績賞選定委員会（2018年9月）]
・後藤 真孝（産総研）
- (2) FIT2019船井ベストペーパー賞（3件）※船井情報科学振興財団主催 [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]
・ケアプラン作成支援システムのための 非負値行列因子分解に基づく特徴語補完
兵頭幸起（横国大）、寺尾勇一、林 慧子、佐野貴洋、竹林奈々子（リゾートトラスト）、濱上知樹（横国大）
・pub/subメッセージングにおける負荷分散性と低遅延性の適応的制御
坂野遼平、首藤一幸（東工大）
・路車間通信を用いた合流支援システムによる車両挙動安定性の評価
菊池典恭、矢野貴大、中林昭一、金子 富、浜口雅春（沖電気）
- (3) FIT2019論文賞（6件） [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]
・心電心拍・脳血流・鼻部皮膚温度の変化に着目した暗算課題のストレス検出
加賀翔太郎、加藤昇平（名工大）
・パラメータ推定とピクセルラベリングの同時学習に基づく競技コート認識
田良島周平（NTTコミュニケーションズ）
・符号化特徴と復元画像の相互情報量最大化に基づくGANベース画像符号化方式の検討
工藤 忍、折橋翔太、谷田隆一、清水 淳（NTT）
・非線形運動方程式にもとづく転倒モデルの構築および、粒子フィルタによる転倒シミュレーション精度の評価
小林知輝、栗原陽介（青学大）
・カーネル脆弱性を利用した攻撃に対する仮想記憶空間の切替え処理の保護と改ざん検出
葛野弘樹（岡大/セコム）、山内利宏（岡大）
・営業活動における意思決定システムの適用と評価
中山義人（東大）、森 雅広（NTTデータ・タイムズ）、斎藤 忍（NTT）、成末義哲、森川博之（東大）

- (4) FIT2019ヤングリサーチャー賞（7名） [FIT2020(2020年9月)表彰] [FIT賞選定委員会（2019年11月）]
・原田崇司（高知工科大） ・岩田晃平（名工大） ・和田凌司（九大） ・大屋瑠璃（九工大）
・植村知規（Massachusetts General Hospital／九工大） ・平林輪樹（東大） ・川原田美雪（東大）

20. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞（3名） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]
・篠木裕二（ITSCJ） ・鈴木俊宏（日本マクセル） ・山田朝彦（産総研）
- (2) 標準化顕功賞（該当なし） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]
- (3) 標準化貢献賞（8名） [情報規格調査会総会（2019年5月）表彰] [情報規格調査会]
・齋藤稔（富士通） ・酒井康夫（日本自動認識システム協会） ・志水信哉（NTT）
・杉本和夫（三菱電機） ・原田要之助（情報セキュリティ大学院大） ・堀田勝美（コンパニオン）
・八木隆（日立製作所） ・山影朋夫（東芝インフラシステムズ）
- (4) 国際規格開発賞（16名：17件） [情報規格調査会 技術委員会（2019年4月～2020年2月）表彰] [情報規格調査会]
・池田宏明（千葉大） ・小川茂孝（アインテック） ・小野文孝（東京大） ・蔵田武志（産総研）
・小石健二（パナソニック） ・坂無英徳（産総研） ・坂本健一（NTTデータ） ・鈴木輝彦（ソニー）
・鈴木 俊宏（日本マクセル） ・関洋平（筑波大） ・中島毅（芝浦工業大） ・永沼美保（日本電気）
・原潤一（リコー） ・原田登（NTT） ・星沢拓（日立製作所） ・渡邊修（拓殖大）
- (5) 産業標準化事業表彰 [工業標準化表彰式（2019年10月）表彰] [経済産業省]
・経済産業大臣表彰（個人）（経済産業大臣表彰）：鈴木俊宏（日本マクセル）
・経済産業大臣表彰（組織）（経済産業大臣表彰）：日本マクセル
・経済産業大臣表彰（組織）（経済産業大臣表彰）：富士通
・奨励者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：大山潤爾（産総研）
・奨励者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：水野由紀子（日本規格協会）
・功労者表彰受賞者（産業技術環境局長表彰）：高村誠之（NTT）

その他および附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上